Catalog 2020-#3

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス･コード{ａ￥１６９０/Ａ￥１８９０/Ｂ￥２０９０/Ｃ￥２２５０/Ｄ￥２４９０}
（表示価格は税抜き）　別途消費税が加算されます

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律２５０円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律５００円。
※代金引換送料（郵送）：初回 390 円/二回目以降 590 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋２５０円。

注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ７/２１までにお願いします】
注文方法１の場合を除き、発送はご注文受取り後約５日以内にしたいと思っていますが、無理な場合もあります。締切日に近いご注文の場合は、２週間ほどかかる場合もあります。電話注文はお受けしておりません。
●お問合せはメールにてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●カタログは郵便にてお届けします。

（新型コロナウイルス禍の通販カタログ）
*外国からの郵便物はアイルランドからは日本向け停止のため三月中旬以降、まったく届かず。英国からは四月末に停止解除、米欧は停止されていないものの、届く日数は二週間からひと月以上とバラバラ。そんな感じで、新入荷商品は気長に待ってようやく入荷出来た商品ばかりです。その分愛おしく感じられます。
*今回目出度くも販売出来る JACQUI McSHEE & KEVIN DEMPSEY の新譜と JUNE TABOR & OYSTERBAND の新譜そしてアイルランドの EILIS KENNEDY の新譜(アイルランド便がない中苦労して輸入しました)の愛おしい三枚は今年のベスト３と言える素晴らしさでした。ほかにスコットランドの FINDLEY NAPIER & GILLIAN FRAME WITH MIKE VASS の新作や元 STEELEYE の PETER KNIGHT のバンド PETER KNIGHT'S GIGSPANNER BIG BAND の新作も絶品でした。イングランドの AVOCET は PENTANGLE～B.JANSCH/J.RENBOURN ファンは聴き逃せませんよ。
*SSW(Singer&Songwrier)と米国ロック系は少なめですが、待望の THE WEIGHT BAND の新譜にこれまた待望の NED ROBERTS の新譜ほかお勧めのばかり。
*前回は特に MUIREANN NIC AMHLAOIBH:Thar Toinn / Seaborne(完売)と SALT HOUSE:Huam をご注文の皆さまにご迷惑をお掛けしました。この二枚(SALT HOUSE は追加仕入れ分)は現地郵便局で出荷された後に、日本向け郵便がは停止されたためにどうなっているかわからない状態でした。英国の SALT HOUSE:Huam の業者にそのことを告げたら、すぐに再送してくれました。しばらくして、最初の分と再送分共に届いてしまいました。今回、SALT HOUSE:Huam はプラ

イス･コードを下げて販売します。
*再送と言えば､FAIRPORT の最近の二枚も｡これは初回発送分が届かず､再送分がひと月半遅れでやっと届いた時は万歳をしたい気持ちでした｡再送してくれた FAIRPORT のオフィスの担当者さんに感謝｡HOUSE:Huam の業者といい､FAIRPORT のオフィスの人といい､対応が本当に良心的ですね。
*前回､ELIZA GILKYSON の新譜と DAVID BROMBERG BAND の新譜の注文が予想以上に多く寄せられ､緊急の補充が必要となり､DHL なら一週間内で配達可能とのことで､高額の宅配便代をカバーするために､久し振りに Bothy Band と Martin Hayes の CD を一緒に送ってもらいました。

（MUIREANN NIC AMHLAOIBH:Thar Toinn 未発送の皆さまへ）
アイルランドから日本向け郵便が停止されたため、3 月 18 日に出荷された郵便小包がまだ届いていません｡確認を取ったところ､依然日本向け郵便は停止状態だそうです｡停止が解除され次第､再出荷を依頼する予定です｡いずれにせよ､入荷次第お送りします｡キャンセルをご希望の場合はご一報下さい。

（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい｡最初のお支払いは請求額の半額になります｡残り半額は 8 月 31 日まででＯＫです。

＊ＴＯＰ　３０　ＳＥＬＬＥＲＳ(2020－#2)＊
1)MUIREANN NIC AMHLAOIBH:Thar Toinn / Seaborne(Ireland)
2)ELIZA GILKYSON:2020(USA)
3)JACKIE OATES & JOHN SPIERS
　:Needle Pin,Needle Pin(England)
4)JOHN DOYLE:The Path Of Stones(Ireland)
5)SALT HOUSE:Huam(Scotland)
6)YANN-FANCH KEMENER:Roudennou/Traces(Bretagne)
7)ADAM AMOS & NOEL ROCKS:Back Up To Zero(Scotland)
8)RICHARD THOMPSON:Live At Rock City Nottingham
　- November 1986(England)
9)DAVID BROMBERG BAND:Big Road(USA)
10)STEELEYE SPAN
　:Live At De Montfort Hall,Leicester,1977(England)
11)MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The New Mine(UK,Holland)
12)MAGGIE MacINNES:Port Ban(Scotland)
13)NEVER TIRE OF THE ROAD／旅に倦むことなし
　～アンディ・アーヴァインうたの世界(Ireland)
14)THE BONNY MEN:The Broken Pledge(Ireland)
15)STEVE COONEY:Ceol Ársa Cláirsí(Ireland)
16)JONI MITCHELL & JAMES TAYLOR:Paris Theatre 1970(USA)
17)MASTERSONS:No Time For Love Songs(USA)
18)PETE SEEGER & ROGER McGUINN
　:The Bottom Line Archive Series(USA)
19)JOHN MCCUTCHEON:To Everyone In All The World(USA)
20)THE BURRITO BROTHERS
　:The Notorious Burrito Brothers(USA)

21)PIERRE BENSUSAN:Azwan(France)
22)BLACKIE & THE RODEO KINGS:King Of This Town(Canada)
23)GORDON LIGHTFOOT:Solo(Canada)
24)BLACKBIRD & CROW:Ailm(Ireland)
25)HELENA VEDRALOVA & MUZIGA:Zezali(Czech)
26)KORJEN:Sabur(Bosnia,Poland,Slovakia)
27)MICHAEL DOUCET:Lâcher Prise(USA)
28)RUTH HAZLETON:Daisywheel(Australia)
29)ROMARABEAT:Romarabeat(Roma)
30)RY COODER & DAVID LINDLEY:Vienna 1995(USA)

Book, Re-issue, USA, Canada, British Folk, England, Scotland,

Ireland, USA(Trad), Canada(Trad), Europe 他, New Arrival, あとがき

（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

［ＢＯＯＫ］

（国内版）

*NEVER TIRE OF THE ROAD／旅に倦むことなし
～アンディ・アーヴァインうたの世界 ¥1600
(Andy Irvine の歌詞集が翻訳家で文芸誌「MONKEY」編集長の柴田元幸氏の対訳で出版された。収録歌詞は Andy がコンサートで好んでうたうレパートリーの中から 21 曲。書名に選ばれた曲を含め、すぐにメロディーが思い浮かぶ曲がいくつも。歌詞数こそ少ないが、Andy 自身の歌詞の解説と機転の利く注釈そして柴田氏の名訳は Andy の唄の世界をより理解する上で、また実際に彼の音楽を聴く上で、大きな助けとなる。また歌詞を考察した上で訳された歌詞は、表現が豊かで、そのまま詩集としても秀逸。歌詞集に Andy からの「日本のみんさんへ」の挨拶、ディスコグラフィー、バイオグラフィー、Andy の親友で画家の Eamonn O'Doherty による挿画 6 点など全 120 ページ。2020 年ヒマール刊)

（海外版）

*BRINGING IT ALL BACK HOME ¥3980
(在庫一冊。Nuala O'Connor 著。P176。1991 年刊。BBC)
*THE LIFE AND MUSIC OF STAN ROGERS ¥2980
(在庫一冊。Chris Gudgeon 著。ハードカバーの表紙に十カ所ほど尖ったもので突いたような痕跡が見られます。P217。1993 年刊。Penguin Books Canada)
*DAZZLING STRANGER "Bert Jansch And The British Folk And Blues Revival" ¥2980
(by Colin Harper。P376。2000 刊。Helter Skeler)
*THE HARP OF IRELAND ¥2280
(著者:Grainne Yeats。副題"The Belfast Harpers' Festival 1792 and the Saving of Ireland's Harp Music by Edward Bunting"。目次:The Harping Tradition/The Belfast Harpers' Festival/Edward Bunting/The Music of the Harp/The

Harper Composers/Turlough Carolan,The Harpers Who Played at Belfast/Selected Bibliography。P72。Belfast Harpers' Bicentenary)

*STILL GROWING D
(副題"English Traditional Songs and Singers from the Cecil Sharp Collection"。序文:Shirley Collins。P118。2003 刊。EFDSS)

*SEAN O RIADA - HIS LIFE AND WORK D
(by Tomas O Canainn。P214。2003 刊。The Collins Press)

(楽譜,ソングブック等)

*ATHOLE COLLECTION OF THE DANCE MUSIC OF SCOTLAND ¥3300
(1884 年に刊行されたスコットランドのダンス曲 870 曲収録の楽譜集。いわば、アイルランドのの伝統音楽楽譜集「オニールの本」のスコットランド版。2008 年刊。Highland Music Trust)

*THE COLLECTED COMPOSITION OF ED REAVY ¥2980
(在庫一冊。Compiled byJoseph M.Reavy。多くのアイリッシュ演奏家に愛されている伝説的フィドル奏者 Ed Reavy{1898-1988}作曲の楽譜集。全 127 曲。曲目解説付。。P152。Green Grass Music)

*MUSIC OF TURLOUGH O'CAROLAN SERIES TWO ¥1000
(Taught by Duck Baker。"Planxty Irwin","Newlett","Plaxty Sweeney","Planxty Kelley","The Fairy Queen"のギターコード付楽譜。Duck Baker)

*IRISH SESSION TUNES(The Blue Book) B
(Selected by Brid Cranitch。アイリッシュ・フィドル向け 100 曲収録楽譜集。Ossian)

*110 IRELAND'S BEST SLOW AIRS A
(110 曲収録楽譜集。Waltons)

*TRADITIONAL SLOW AIRS OF IRELAND ¥2980
(by Tomas O Canainn。100 曲以上収録の楽譜集。P101。1991 年/2001 刊。Ossian)

↑楽譜に即した別売模範演奏２枚組 CD{価格 D}も在庫あります。「CD」と明記下さい。

(CD-ROM/ＬＥＳＳＯＮ)

*DEREK HICKLEY:B/C Button Accordion Tutorial D
(B/C ボタン・アコーディオンの初心者からプロ級までのレッスン CD-ROM。Mad For Trad)

*GERRY O'CONNOR:Irish Tenor Banjo Tutorial D
(アイリッシュ・テナー・バンジョーの初心者からプロ級までのレッスン CD-ROM。Mad For Trad)

*SEAN Og POTTS:Uilleann Pipes Tutorial D
(イリアンパイプスの初心者からプロ級までのレッスン CD-ROM。Mad For Trad)

(ＣＤ{又はカセット}付楽譜/教則本/本)

*CHARIE LENNON:Irish Tunes For Fiddle ¥2980
("Musical Memories Vol 2"。Charlie Lennon の 72 曲収録の CD 付き楽譜。曲目解説、ディスコグラフィー他付。P106。2012 年刊。Waltons)

*110 IRISH SESSION TUNES VOL.3 D

（楽譜に即した演奏の CD 付 110 曲収録ギターコード付楽譜。Waltons）
*110 IRELAND'S BEST SESSION TUNES VOL.2 ¥2980
（楽譜に即した演奏の 2 枚組 CD 付 110 曲収録ギターコード付楽譜。Waltons）
*110 IRISH FIDDLE TUNES VOL.2 D
（楽譜に即した演奏の 2 枚組 CD 付 110 曲収録ギターコード付楽譜。Waltons）

[リイシュー/Historic Recording]
（CD/U．S．A．）



（John Stewart）
*JOHN STEWART:Old Forgotten Altars A
（副題"The 1960s Demos。本作は 1965 年～1968 年に Columas Recording スタジオで録音されたデモ音源曲 18 曲に 1959 年の宅録曲一曲を加えた 19 曲収録盤。個人的には 1972 年の"Sunstorm"で J.Stewart に出逢って、その後に彼の前のアルバムを買い集めたが、ソロ以前の Kingston Trio のフォークには興味は持たなかった。本作はその Kingston Trio 時代に録音した主に弾き語りによるフォークで、1969 年の"California Bloodlines"のソロのアルバムのデモ録音、或いはソロデビュー前の予行演習的な位置付けが出来る内容。"California Bloodlines"に収録されていて、今も好きな曲が三曲収録されている。その三曲は"The Pirates Of Stone County Road"と"She Believes In Me"と"Mother Country"。前の二曲は奥さんの Buffy Ford Stewart とのデュエットで、1974 年のライヴ盤"The Phoenix Concerts"にも収録されている"The Pirates･･･"はそのライヴの感動を思い起こさせる歌唱にうっとり。"Mother Country"は彼らしい気骨あるギター弾き語りフォークに心熱くなる。既にこの時代に彼の SSW/フォーク･シンガーとしての大器が芽生えていた。ジャケットを開くと、恋人時代の？Buffy と John の写真。2020 作。Omnivore）
※追記:John Stewart & Buffy Ford 名義のアルバム"Signals Through The Glass"が 1968 年にリリースされていて、LP を見つけ出して久し振りに聴いたが、どちらかと言えば Buffy のヴォーカルが引き立つデュエット･アルバムで、フォーク調だが、ロック調やオーケストラ付きの曲もあって、時代性は感じられるもののアルバムとしては散漫な印象。
*PETE SEEGER & ROGER McGUINN
:The Bottom Line Archive Series a
（1994 年 5 月 18 日、ニューヨークの Bottom Line で P.Seeger と R.McGuinn が行ったライヴ音源からの二枚組アコースティック･ライヴ。全 22 曲。Pete Seeger の唄は泰然として味わい深いが、やはりギターの弾き語りではあっても、フォーク･ロック的な＋α

の魅力を放つ Roger McGuinn の唄が大きな魅力。1994 年/2020 作。SFM)

*THE BYRDS:Some Standing Alone ¥2590
(副題"The Classic 1970 Amsterdam Broadcast"。The Byrds の 1970 年のオランダのアムステルダムでのライヴ二枚組。音源は放送局音源。メムバーは同年に発売された"Untitled"と同じ Byrds 史上最強？メムバーの Roger McGuinn,Clarence White,Skip Battin, Gene Parsons。全 25 曲。1970 年/2019 作。Shockwaves)

*GENE CLARK & FRIENDS:Live At The Three T's A
(1985 年５月にインディアナのクラブでの Gene Clark と仲間達の FM ラジオ収録ライヴ。確認できる仲間達は元バーズの Michael Clark と John York に元ビーチボーイズの Blondie Chaplin に元フライング･ブリトー･ブラザーズの Rick Roberts。気骨ある Gene Clark の弾き語りとザ･バンド風ロックとカントリーっぽくない時代のバーズ風ロックが混在した弾き語りを含めてエネルギッシュなライヴ。1985 年/2019 作。Leftfield Media)

*ROGER McGUINN'S THUNDERBYRD
:Live At Rockpalast 1977 C
(1977 年 7 月 Roger McGuinn がドイツで行ったテレビ番組主催のコンサートを収録した DVD＋CD セット。バンド･メムバーは元 Fleetwood Mac の Rick Vito{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､元 Poco の Charlie Harrison{ﾍﾞｰｽ､ｳﾞｫｰｶﾙ}そして名セッション･ドラマーの Greg Thomas。R.McGuinn と C.Harrison の二台のエレキ･ギターがギタの競演をし､かつ R.Mcguinn はギターで魅惑の Byrds サウンドを奏でつ汗だくになって熱唱する。メチャ凄い。1977 年/2019 作。MIG)

*STEVE GOODMAN:Artistic Hair A
(1983 年作"Artistic Hair"に 1994 年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ音源曲 10 曲を加えた全 22 曲。1983 年/2019 作。Ominivore)

*STEVE GOODMAN:Affordable Art A
(1984 年作"Affordable Art"に"Street Of London"を含む 1983 年の未発表ソロ･ライヴ音源曲 7 曲と 1994 年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲 1 曲を加えた全 20 曲。1984 年/2019 作。Ominivore)

*STEVE GOODMAN:Unfinished Business A
(1987 年作"Unfinished Business"にソロを中心にした未発表ライヴ音源曲 9 曲{内一曲は"Don't Get Sand In It"のデモ曲}と 1994 年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲 1 曲を加えた全 19 曲。1987 年/2019 作。Ominivore)
(1970 年代 SSW アルバムの名盤中の名盤。1972 年/2007 作。Riversong。検品してお送りします)

*BOB MARTIN:Midwest Farm Disaster C
(1970 年代 SSW アルバムの名盤中の名盤。1972 年/2007 作。Riversong。検品してお送りします)

*JOHN PRINE:The BBC Sessions
～The Lost Broadcasts 1971-1973 A
(1971 年 BBC2 のテレビ番組のライヴ音源から６曲と 1973 年 BBC の FM ラジオのライヴ音源から８曲の全 14 曲。大半の曲が John Prine の 1971 年のデビュー･アルバムからのナムバーで､ギターの弾き語りでうたわれる曲の数々は､素朴でデビュー当初の彼の唄本来のス

ッピン魅力が楽しめる。1971 年/1973 年/2019 作。Sutra)

（CD/ＢＲＩＴＡＩＮ＆ＩＲＥＬＡＮＤ他）

*GAY & TERRY WOODS:Backwoods B
(Woods Band の後の Gay & Terry Woods の一枚目で伝説の名盤。何と初々しい 70 年代{アイルランドの}英国フォーク。以前よく販売していた韓国の怪しげなレーベル Hugo-Montes 盤。1975 作)

*WATER INTO WINE BAND:Hill Climbing For Beginners B
(Heron と比べられることのある 70 年代英国フォークの名盤。のほほーんさが魅力。ボーナス曲 1 曲が加わった全 8 曲。1974 作。韓国 Hugo-Montes)

*EVENSONG:Evensong B
(Evensong は Tony Hulme & MikeLawson の二人組。ほんわかと愁いのあるブリティッシュ・フォーク。1973 作。韓国 Hugo-Montes)

*ROSIE HARDMAN:The Lost Leader C
(Bill Leader をプロデューサーに迎えて 1973 年に録音されていて、お蔵入りなっていた音源を Rosie が CD 発売したもの。1973 年/2000 作。VAMP1。検品してお送りします)

*RAB NOAKES:Rarities＋Demos Vol.1 C
(デビュー前、1969 年のモノ録音音源からの 15 トラック。内一曲は Barbara Dickson とのデュエット。しみじみとした彼の唄が味わえるギターの弾き語り。在庫一枚で、ケース表面三箇所にヒビが入っています。特殊 CD ケースのためケースの交換が出来ません。1969 年/2002 作。Neon)

*MAGENTA:Recollections D
(1981 年作。二枚組 CD。1981 年/2004 作。Hugo-Montes)

*STRAWBS:Preserves Uncanned D
(1991 年作。二枚組 CD。Road Goes On Forever)

*TOM YATES:Love Comes Well Armed A
(本作は 1973 年に President というレーベルから発売された Tom Yates{1944-1993}の二枚目。B.J.Cole や Duncan Browne がバックを務めていて、一種独特な浮遊感のある世界は John Martyn の世界にも通じる 1970 年代英国 SSW の独特な感性。1973/2013 作。Epona)

*TOM YATES:Love Is Losing Ground C
(1983 年～1988 年の間のカセットテープ収録音源からの編集 CD。全 12 曲。2012 作。Epona)

[CD/ＵＳＡ{Folk、Rock}系]



(Weight Band)

*THE WEIGHT BAND:Live Is A Carnival A
(The Weight Band は The Band の Weider と Randy Ciarlante の二人を含む五人編成のウッドストックを拠点に活動するアメリカン・

ロック･バンドで本作は二枚目。本作は 2019 年の一月にニューヨークの Brooklyn Bowl でのライヴ。アルバム･タイトルは The Band の名曲"Life Is A Carnival"をもじったタイトルだが、全 14 曲中 7 曲は「南十字星」までの The Band の名曲で、4 曲は Jim Weider と Levon Helm や Colin Linden 等との共作等。ライヴということでファン･サービスもあってか、コピーと言ってしまえば身も蓋もないが、ヴォーカルもサウンドも徹頭徹尾 The Band っぽい。The Band 流の絞り出すようなヴォーカルとハーモニーそして重層的で鋼のロック･サウンドは、痺れる。何も知らずに聴いたら、The Band の未発表音源ライヴと思ってしまいそう。むむむ、The Band 以上に The Band っぽいのもある、"Ophelia"なんか。最後は"Life Is A Carnival"{8 分 33 秒！}そして"The Weight"{7 分！}で大盛り上がりで幕。夢をありがとう！2020 作。Must Have Music)

*THE BURRITO BROTHERS:The Notorious Burrito Brothers a
(Chris P James{ヴォーカル、キーボードほか}, Tony Paoletta{スティール･ギター、ドブロ、マンドリン}, Bob Hatter{アコースティック&エレキギター、ベース}, Peter Young{ドラムス、ヴォーカル}という馴染みのないラインナップになってしまった Burrito Brothers の新作。Burrito Brothers というより、初期 Eagles や初期 Poco のようなカントリー色の薄いソリッドな西海岸ロック風で、滅茶苦茶好み。2020 作。SFM)

*JOHN MCCUTCHEON:To Everyone In All The World B
(ヴェテラン･フォーク･シンガーの John Mccutcheon の通算 40 枚目。その昔、ぼくなどは彼のハンマーダルシマー･アルバムをこよなく愛聴した。本作は Pete Seeger 作のナムバーと P.Seeger のレパートリー全 15 曲を John が仲間達と演唱したもの。この企画に参加した仲間達は、固定メムバーの Pete Kennedy, JT Brown, Robert "Jos" Josepe に加えて、Hot Rize, Beausoleil, Steels Wheels, Finest Find などのメムバーや Stuart Duncan, Corey Harris, Suzy Boguss, Katia Cardenal, John Jenning 等々。久々に聴く John の唄は穏やかで丸っこくて、今が旬！と感じられる生き生き感ある。2019 作。Appalseed)

*MICHAEL DOUCET:Lâcher Prise A
(BeauSoleil の Michael Doucet の新作。ソロ名義だが、実質的に孫くらいの女性シンガーの Sarah Quintana{ヴォーカル、ギター}に Chad Viator{ギター}, Chris French{ベース}, Jim Kolacek{ドラムス}をバンド･メムバーに迎えたフランス系のケイジャン、ザディコ等のルイジアナ･スタイルのルーツロック。ケイジャンやザディコをベースに滅茶苦茶ノリの良いルーツロックで驚かせる。ヴォーカル･ハーモニーを含めたバンドの一体感は 1970 年代のカントリー･ロック･バンドのようで、同じ米国南部系だが、南部ロックとも、またカントリー･ロックとも味わいの異なるルイジアナ伝統の南部系ルーツロックを若々しくエネルギッシュに生み出している。ジャケットの絵のタイトルは「ゴジラ対人」。2020 作。Compass)

*TERRY ALLEN & THE PANHANDLE MYSTERY BAND
:Just Like Moby Dick B
(Terry Allen の新作！長編小説「『白鯨』(Moby Dick)のように」と題された本作は、冒険心旺盛で様々な悲喜劇が T.Allen のアクのあるヴォーカルで朗々とうたわれる。やや円やかになった印象はあるものの、Terry のヴォーカルの野趣な覇気は変わっていな

い。Charlie Sexton,Jo Harvey Allen,Bukka Allen,Richard Bowden,Lloyd Maines 等のバックアップはいぶし銀のテックスメックス～テキサス･フォークとして味わいが深い。女性 SSW の Shannon McNally とのデュエットも聞き物。本作発売時､T.Allen は 76 歳。2020 作。Paradise Of Bachelors)

*WATER AND SAND:Catching Light A

(Water And Sand はヴェテラン SSW の Todd Thibaud と同じくヴェテラン SSW の Kim Taylor の男女のヴォーカル･デュオ。本作は二枚目だが､聴くのは初めて。男女の心ある良きシンガーが手を組めば､こんなに魅力的なアルバムが作れるという見本のようなアルバム。二人は二人で創作した人生の悲喜交々の唄を実に丁寧にうたっていて､Todd の物語るような朗々としたヴォーカルと Kim の内にシンガー魂を感じさせる表現力豊かなヴォーカルの､それぞれの色合いの特長を活かしたヴォーカル･デュエットの妙は､ゾクゾクっとさせられると同時にそれぞれの唄の魅力が引き立って聞こえてくる。おまけにアコースティックからルーツロックの幅のサウンドが滅茶苦茶いかしてる。2019 作。Blue Rose)

*PARIS TEXAS:When You're Gone A

(Paris Texas を名乗るベルギーのアントワープの五太郎バンドによる本作は､米国音楽の酸いも甘いも知ったような味わいのあるご機嫌な米国フォーク･アルバム。SSW の Gerrit Hüppertz{ヴォーカル､ギター}と Dave Crokaerts{ヴォーカル､ギター}を中心に結成された Paris Texas の音楽は､70 年代､米国のフォーク･クラブで気の合うフォーク･シンガーとミュージシャンが集まって結成したようなあの時代の SSW の雰囲気と自由な空気感があって､滅茶苦茶和んでしまう音楽。タイムスリップして､シカゴかどこかのフォーク･クラブに迷い込んだような気分。愛すべき音楽。残りのメムバーは Dirk Peerear{ヴォーカル､ドブロ},Jan Michielsen{ヴォーカル､マンドリン},2019 作。TRAD)
Maarten Michielsen{ヴォーカル､ダブルベース}

*DAVE SPECTER:Blues...From The Inside Out A

(Featuring Jorma Kaukonen{ギター} & Brother John Kattke{ヴォーカル､ピアノ､オルガン}の 35 年のキャリアを誇るブルース･ギタリストの Dave Specter のシンガー＆ギタリストとしてのデビュー作。ソリッドなブルース･ギターにドラムス､ベースにホーンが加わったブルース～南部ロックは 60 年代後半から 70 年代のブルース系音楽のコアの味わいとパワーを保持し､しかも Dave Specter のヴォーカルは 70 年代の南部系 SSW のようなヌーボーとした味わいを発散していて､何とも味わい深く魅力的。ゲスト･シンガーだが､シカゴを拠点に活動する女性 SSW の Sarah Marie Young のソウルフルな南部ロックは､だめ押し的に圧巻。2019 作。Delmark)

*JACK TEMPCHIN:One More Time With Feeling A

(穏やかに昔のことを懐かしむ"One Of Good Old Days"で幕開けする Jack Tempchin の新作は続く Jack Tempchin 作で Eagles のヒット曲"Peaceful Easy Feeling"から若かりし頃にタイムスリップしたかのような年季が入ってやや懐古趣味ながら､輝き感のあるカントリーロックを自然体で体現していて､最高な気分になる。これはもう 70 年代の西海岸ロック＆ＳＳＷファンへの最高の贈り物。プロデュースは Uncle Jim's Music の Gary Nicholson。音楽シーンで同じ時代を過ごし､気心の知れた音友

の手腕が大きく功を奏した感がある。2019 作。Mailboat)
*AD VANDERVEEN:Final Refuge A
(オランダのヴェテラン SSW の Ad の新作は、ギター、ピアノ、バンジョー、スティールギター、ハーモニカ等によるサウンドは木漏れ日感があって、齢を重ねて到達したかのような落ち葉ふかふかの穏やかな唄たちだ。その穏やかな唄たちは、フレッシュなアコースティック・サウンドの輝きの中で、実に味わい深く、どちらかと言うと渋いタイプの唄なのに、夢見心地な趣がある。出来過ぎなくらい凄く良く出来た SSW アルバムだ。2019 作。Continental)
*JEREMY NAIL:Ghost Of Love A
(テキサスのオールバニーという町出身の SSW のでギタリストの Jeremy Nail の新作で二作目。テキサス出身ということは忘れた方が良い。Jeremy の唄は白日夢的で一種独特だ。それは"Windmill"や"Paradise"や"Angels Will Fall"等の収録された曲名からもおおよそ感じ取れるが、どこか夢の中にいるような現実感のないぼんやりした唄とカラフルなギターをフィーチャーした独特な"Peaceful Feeling"なルーツロック。すべてが緩やかに流れてゆく。2019 作。Coast To Coast)
*DAVID MASSENGILL:Coming Up For Air A
(David Massengill を知ったのは Jack Hardy が編集した Fast Folk Musical Magazine というマガジン付 LP。D.Massengill は Jack Hardy が亡くなるまで Folk Brothers という二人組で活動したが、本作は彼の 1992 年のデビュー・アルバム。Steve Goodman タイプの SSW だが、ニューヨークではもう既に中堅の SSW 的存在で、機知に富んだ唄は溌剌として新鮮。w.Steve Addabbo{プロデューサーでもある},Larry Cambell,Chris Bishop,Denny McDermott,etc。1992 作。Flying Fish。本 CD は昔米国盤 CD で一時期流行った縦長のプラスティック製パッケージ仕様ですので、解体し、通常 CD 仕様にてお送りします)
*BRENT MOYER:Truth Trust Dreams And Heart B
(お宝発掘。ナッシュビルの SSW の Brent Moyer の 1998 年のアルバム、昔よく聴きました。Steve Goodman を少し軽めにしてリラックスした雰囲気の心地よいフォーク、カントリー、ブルース、テックスメックス等が混ざり合ったルーツロック・スタイルの SSW アルバム。Brent の唄と共に Brook Langton のスティール＆ラップ・スティールほかによる土臭いサウンドの旨みは今も褪せず。1998 作。Brambus。検品してお送りします)
*MICHAEL STANLEY:The Ride(2013 作。Line Level) A

[CD/ＵＳＡ{female}他]



(Eileen Rose)



(Lititia Van Sant)

*EILEEN ROSE:Muscle Shoals A
(ボストン出身の女性 SSW の Eileen があこがれのマッスルショール

ズ･スタジオで録音したダブルアルバムの"2 in 1"。全 17 曲中 9 曲収録の A サイドは新曲で 8 曲収録の B サイドはマッスルショールズ再録曲。バックを務めるのは Eileen のバンド"Holy Wrek"の Rich Gilbert{ギター､ﾍﾟﾀﾞﾙｽﾃｨｰﾙ他},Chris Machlalan{ﾍﾞｰｽ},Steve Latanation{ﾄﾞﾗﾑｽ}に加えて Joshua Hedley{ﾌｨﾄﾞﾙ},Norma Goadone{ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ｳﾞｫｰｶﾙ}のナッシュビルの名うての五太郎。あこがれの力は偉大。バンドのサウンドは今の音楽用語で言えばアメリカーナだが､音に魂が入っているというか､音が重厚で南部寄りのルーツロックとして見事に熟れたロックを結実させていて､主役の Eileen 姫はまるでフォーク､ロック､ソウルの偉大なシンガーの霊が乗り移ったかのように､堂々たるヴォーカルでうたい放つ。恐るべし Eileen 姫。2020 作。Continental Song City)

*LETITIA VAN SANT:Circadian A

(2016 年から Kerrville New Folk Songwriting コンペティションなどのコンテストで数々の賞を受賞しているメリーランド州バルチモアの女性 SSW の Lititia の新作。一聴と同時に並の SSW ではないことは､その粘っこさのあるヴォーカルから直感した。名プロデューサーの Neilson Hubbard{Mary Gauthier,John Prine,Matthew Ryan 等}の､アメリカーナ～ルーツロックの名作を目指さんばかりの重厚かつ軽妙な音作りの手腕は見事で､聴き手のハートを鷲づかみする。肩を並べる女性 SSW が思い浮かばないほどトータルに秀逸。w.Will Kimbrough,Juan Solorzano, Michael Rinne,Mia Rose Lynn,David McKindley。2020 作。Lititia Van Sant)

*MASTERSONS:No Time For Love Songs A

(Eleanor Whitmore{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｳﾞｧｲｵﾘﾝ他}と The Dukes のメムバーの Chris Masterson{ｳﾞｫｰｶﾙ､各種ｷﾞﾀｰ他}の夫婦デュオ"Mastersons"結成 10 周年記念の四枚目。この二人は Gram Parsons & Emmylou Harris 的な雰囲気とそうしたものを Eleanor のヴォーカルをメインに据えてピュアに 醸成したようなヴォーカル･ミュージックを滅茶苦茶かっこいいルーツロック･サウンドを伴って､創り上げている。そのピュアさが 70 年代の Gay & Terry Woods のようなアイリッシュ＆ブリティッシュ･フォークのような愁い感のある音楽をも生んでいて､底知れなく魅力的。聴き惚れてばかり。2020 作。Red House)

*MASTERSONS:Transient Lullaby(2017 作。Red House) A

*ITASCA:Spring B

(Itasca こと女性 SSW の Kayla Cohen の二枚目。不思議な魅力の女性 SSW アルバムだ。米国西部のフォー･コーナーズという地域の風景と歴史にインスパイヤーされて制作したという本作だが､自身が爪弾くのフィンガー･ピッキング･ギターの鮮やかな音色と夢でも見てるかのようなアンニュイなヴォーカルは心地よく彼女独特な唄の世界に誘われていく。音楽はアコースティックで春の明るさが感じられるが､唄と音楽全体から醸し出される夢か幻かの不思議感は､ある種対象的な Nick Drake の不思議感にどこか通じる。静かな衝撃作。2019 作。Paradise Of Bachelors)

*MEENA CRYLE & THE CHRIS FILLMORE BAND:Elevation A

(Meena Cryle なる凄い女性シンガーをヴォーカルに据えたオーストラリアの南部ロック･バンドの Meena Cryle & The Chris Fillmore Band のドデカい南部ロック･アルバム。南部フィーリン

グ豊かな Meena のヴォーカルが圧巻な上に、Meena の夫でギター達人 Chris Fillmore 率いるバンドの南部ロックは抜群。現在、南部ロック系の女性シンガーで、Meena 以上の実力派女性シンガーは思いつかない。2019 作。 Continental)

*HANNAH ROSE PLATT:Letters Under Floorboards A
(Neil Young や Martha Wainwright の影響を受けたという女性 SSW の Hannah の新作で二枚目。パンチ力あるルーツロック・サウンドでノリノリのヴォーカルで幕開けし、一発でノックアウトさせられる本作だが、Emmylou Harris に似た魅力的な声とストーリーをじっくりとうたう力は並はずれて素晴らしく、ルーツロックな音作りも基本は Hannah のギターの弾き語りをベースにしたもので、ルーツロックの質が高い。そういう意味ではプロデューサーでギタリストの Thomas Collison の手腕は見事。ゲスト:Sid Griffin。2019 作。Continental)

*CAROLINE HERRING:Verses A
(テキサスはオースティンを拠点に活動するヴェテラン女性 SSW でフォーク・シンガーの Caroline Herring の新作で八枚目。古典的な聖歌やゴスペルの詩歌に影響を受けたという Caroline の唄は、個人目線の一般的な米国フォークとは趣を異にし、ひと言で言えば、柔和で瑞々しい包容力のあるフォーク。Caroline の唄には春の草花や春の日射しのようなフレッシュな輝きがあり、ギターやピアノなどの演奏も同様な輝きがある。唄は Allison Krauss の自宅スタジオで三日間で収録したそうだ。小鳥の囀りが音楽と共に聞こえてきそうな音楽の空気感。2019 作。Continental)

*DAVINA SOWERS AND THE VAGABONDS:Sugar Drops A
(ミネソタを拠点に 2006 年から活動する Davina & The Vagabonds の新作。古いブルースやジャズの世界を往年の黒人女性シンガーのムードとサウンドを体現するシンガーやグループの中でも、彼らは 1930～40 年代のディキシーランド・スタイルのホーン・セクションを伴ったニューオーリンズ音楽をベースに独自のレトロ音楽を魅力的に体現している上に、Davina のハスキーでブルージーなヴォーカルは、往年の黒人女性シンガーのムードばっちり。流石 13 年のキャリア。2019 作。Red House)

*SUSAN TRUMP:What The Hill People Say C
(1989 作。Susan Trump Music。検品してお送ります)

*MARIA MULDAUR:Meet Me At Midnite A
(1994 作。Black Top。検品してお送ります)

*FRED JAMES & MARY-ANN BRANDON:We Belong Together a
(ヴェテラン SSW でギタリストの Fred James とスワンプ女王の Mary-Ann の共演盤。2011 作。SPV)

*HAZLEWOOD:Journey(ラップ包装なし。1990 作。Hazlewood) C

[DVD/ＵＳＡ] NTSC all regions
※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能

*BRUCE SPRINGSTEEN:Classic Performance A
(B.Springsteen の初期のベスト・ライヴ集。全 14 曲。1988 年/2005 年。American Legends。検品してお送りします)

*CROSBY,STILLS & NASH:Live In L.A. A
(1982 年ロスの New Universal Amphitheater でのライヴ。全 23 曲で 80 分。2007 作。Immortal。検品してお送りします)

*BIG BROTHER AND THE HOLDING COMPANY:Hold Me D
(Sophia Ramos がヴォーカルの Big Brother & The Holding Company のドイツでのライヴ。2007 作。Dig Music。検品してお送りします)

[DVD/ＣＡＮＡＤＡ] PAL 2
※PAL 専用 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰ/ﾊﾟｿｺﾝで再生可能
*NEIL YOUNG:Heart Of Gold C
(二枚組。ディスク１はドキュメンタリー＋ライヴ一曲。ディスク２は 2005 年のナッシュビルでのライヴ。全 19 曲。w.Emmylou Harris,Ben Keith,Spooner Oldham,Karl Himmel,Chad Cromwell ,etc.　検品をして送ります。2005 年。Shangri-la)

[CD/ＣＡＮＡＤＡ]





(Lynne Hanson) (Ken Whiteley)

*LYNNE HANSON:Just Words A
(カナダの女性 SSW でギタリスト、そして二度のカナダの"Folk Music"賞を受賞しているの Lynne Hanson の新作。Lynne はカナダの女性 SSW の Lynn Miles と The LYNNeS の女性デュオを組んで活動しているが、当店人気の Lynn Miles とは極端に言えば聖と俗くらい個性が異なる。Lucinda Williams と比較されることの多い Lynne の本作は、米国のヴェテラン女性 SSW の風格と味わい。軽快なロック調から南部ロック調まで広くアメリカン･ロック調だが、腰の据わったヴォーカルはそんな音楽性を超えて、心に響く。と同時に SSW としての器の大きさを実感する。Lynne のヴォーカルもアメリカっぽいサウンドも、カナダ人らしい知性というかクールさが感じられて、つぼを得たロックは一体感と同時に心地よい爽快感がある。ブルース･ギターを含め滅茶苦茶かっこいいロック･ギターを弾く Kevin Brett のギターにも注目。ゲスト:Catherine McLellan。2020 作。Continental Song City)
*KEN WHITELEY:Calm In The Eye Of The Storm B
(1951 年生まれの K.Whiteley の新作。彼の南部音楽志向は Chris & Ken Whiteley の Whiteley Brothers のデビュー時から不変。そんな南部音楽を糧にして自分の音楽を育んできた K.Whiteley の本作は、彼の体にしみ込んだ音楽を優しい気持ちで、ラップスティールやマンドリンを奏でながら、女性バッキング･ヴォーカル等の助っ人を得て、ゴスペルやブルースの南部音楽の味わいを損なうことなく、ゆったりと演唱したもの。第一印象は一枚目から三枚目で魅せた Ry Cooder 風音楽だが、年の功というか、音楽がふくよかで優しい。静かな名盤。2020 作。Borealis)
*BLUE RODEO:1000 Arms A
(1984 年結成のカナダのヴェテラン･カントリー･ロック･バンドの

Blue Rodeo の本作は、西海岸カントリー・ロックの王道を突き進む信じられないほど爽快なカントリー・ロック。現在のメムバーは Greg Keelor{ヴォーカル、ギター}、Jim Cuddy{ヴォーカル、ギター}、Bazil{ベース}のオリジナル・メムバーに Glenn Milchem{ドラムス}、Michael Boguski{キーボード}、Colin Cripps{ギター、ヴォーカル}の六太郎。Poco と Byrds の美味しいとこを清々しく受け継いでいて、感涙。彼ら、音楽で青春してますね。2016 作。TeleSoul)

*BOB WISEMAN:Accidental Acquired Beliefs A

(カントリー・ロック・バンドの元 Blue Rodeo のキーボード＆ヴォーカルの Bob Wiseman の 1995 年のアルバム。音楽プロデューサー志向の実験的要素が多い多彩なロック。ゲスト:Daniel Lanois, Ron Sexsmith。WEA。検品してお送りします)

*VALDY:Smorgas Bard(開封。1997 作。ROT) B

*THE SMALL GLORIES:Assiniboine & The Red A

(Small Glories は Wailin' Jennys のオリジナル・メムバーの Cara Luft とマルチ楽器奏者{本作ではアコースティック＆エレキギターを担当}でシンガーの JD Edwards の二人組。実績のある Cara のシンガーとしての魅力は承知していたが、相方の JD Edwards も、ルーツ志向タイプのシンガーとしても凄い魅力なのを知った。阿吽の息で絞り出すようにうたう二人のヴォーカルは、土埃舞うルーツ・サウンドを伴って、信じられないほど見事な男女のヴォーカル・デュエットを見せつけている。2019 作。Compass)

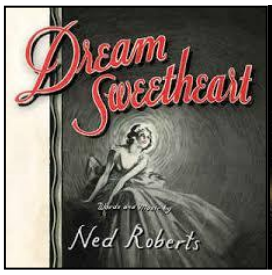
*HIDDEN AGENDA DELUXE & OH SUSANNA:Angels In The Snow a

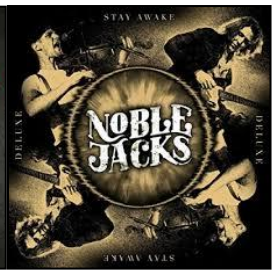
(オランダのヴェテラン・アメリカン・ロック・バンドの Hidden Agenda Deluxe がカナダの女性 SSW の Oh Susanna をメムバーに招いて制作したクリスマス・アルバム。The Band の"Island"収録の"Xmas Must Be Tonight"で The Band 風いぶし銀ロックで幕開けする本作は、いぶし銀アメリカン・ロックから SSW 風そして Oh Susanna のヴォーカルをフィーチャーした女性 SSW 風と聴かせ所色々。2018 作。 Continental)

*FRED EAGLESMITH:Lipstick Lies Gasoline B

(13 曲中 9 曲で Willie P.Bennett がバックグラウンド・ヴォーカルとマンドリンで共演した Fred Eaglesmith の 1997 年の名盤。Willie P.Bennett 系統の土臭いルーツロックは今聴いても圧巻。土埃舞うカントリー～南部志向ロックにまみれて、Fred は野趣な味わいの声を振り絞る。このような土臭くそして気骨あるＳＳＷアルバムは今はなくなった。Produced by Scott Merritt。ゲスト:Richard Bell。巷では高値。1997 作。Razor & Tie。検品してお送りします)

[CD/ＵＫ, ＩＲＥＬＡＮＤ]





(Ned Roberts) (Noble Jacks)

*NED ROBERTS:Dream Sweetheart B

(前作"Outside My Mind"から三年。1970 年代の陰りの感じられるあの時代の英国 SSW っぽいヴォーカルとサウンドに舌鼓を打った前作同様本作も変わらない「ヒューマン・ソング」に舌鼓。プロデューサーも前作と同じ Luther Russell で録音もロス。Ned のギターの弾き語りベースだが、ほどよくロックもしていて、Ned の唄の内向きで心優しい唄と音楽は、1970 年代風のブリティッシュ・フォーク～ロックの良き香りをほのかに立てていて、胸キュン！デジタルの時代にとてもアナログな感触の愛すべき SSW アルバムだ。ジャケットを開けば、日射しの中で夢見る{?}Ned Roberts。ごゆっくりお楽しみ下さい。2020 作。Aveline)

*NOBLE JACKS:Stay Awake(Deluxe) A

(Noble Jacks は英国のブライトンを拠点に活動する Will Page{ﾘｰﾄﾞｳﾞｫｰｶﾙ、ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ｱｺｰｽﾃｨｯｸｷﾞﾀｰ}と Matt Deveson{ｴﾚｷｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ}の二人組。ベースの Jack Hosgood とドラムスの Chris Hardwick で補強した音楽は、爽やかでめっちゃかっこいいルーツロック。この爽やかさの源を音感的に探れば、例えば Runrig タイプのヴォーカルの香りに似た気品というか気高いヴォーカルとロックする前向きさから来るものと直感。言い換えれば、西海岸ロック的な陽光射すロックと Runrig タイプのケルティックとがほどよくミックスしたような気分爽快になるロック。めっちゃ好み。収録曲はダブルアルバム分？の 14 曲。2020 作。Noble Ground)

*ADAM AMOS & NOEL ROCKS:Back Up To Zero A

(Welcome Back！と心で叫びたくなるエディンバラのフォーク・デュオの新作で通算三枚目。二十数年振りに発表した二人の新作は、二人が奏でるバンジョーとギターの伴奏で、齢を重ねた二人のふくよかな唄に心和む。この味わいは出せそうで、中々出せるものではない。バンジョーとギターの音色に乗って、ソロで、そしてハーモニーでゆるくうたわれる唄は、牧歌的でほのぼのと自分の人生を振り返るような心の安らぎ感がある。そうした唄がごく自然に気持ち良くうたわれているのが素晴らしい。人生色々あっただろうけど、今はハッピー気分な素敵なオヤジ音楽でにっこり。Heron や Ronnie Lane のファンは是非。w.David Paton{元 Pilot/ﾍﾞｰｽ},Kenny Hutchinson{ｱｺ、ﾋﾟｱﾉ},Su-a Lee{ﾁｪﾛ}。2020 作。Amos and Rocks)

*MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The New Mine B

(エチオピアの飢餓をテーマにした Joni Mitchell の"Ethiopia"{1985 年の"Dog Eat Dog"収録}から幕開けする Matthews Southern Comfort の新作は、Iain Matthews のシンガーとしての執念のようなものが感じられる覇気あるヴォーカルとバンド・メムバー三名{B.J.Baartmans,Eric Devries,Bart de Win}との阿吽のコーラスと阿吽の重厚感あるロックにドキッとさせられる。この四人のツワモノ達の気力に充ちたエネルギーとバンドで丁寧に練り上げられた柔軟で逞しいロックの旨みと醍醐味は、もの凄い。I.Matthews 率いるバンドの、まだまだ老いぼれぬ熟練ロックに乾杯！2020 作。MIG)

*DEBORAH ROSE:The Shining Pathway B

(南ウエールズ出身の女性 SSW の Deborah Rose の新作。新鮮な響きのアコースティック・ギターを中心にピアノやヴァイオリンの伴奏を伴って聞こえてくる Deborah の唄は何かを祈るかのように穏やかで、時空を超えた深い味わいがある。彼女のヴォーカルは美し

く澄んだヴォーカルの時もあれば、霧がかかったようなスモーキーなヴォーカルの時もあるが、唄の清らかさと悠々さで一貫している。各種楽器の伴奏は主に本作のプロデューサーの Ben Walsh によるものだが、Deborah の唄に寄り添った控えめながら独創性に富むサウンドが、Deborah の唄をリフレッシュしている。7 曲目"Nigel"というナムバーは家族付き合いをしているという Eva Cassidy の父親との共作。2020 作。Deborah Rose)

*GEMMA MAE ANDERSON:Life B

(13 歳から唄作りをしているという Gemma は 17 歳の時に関節リウマチを発病。本作はセラピストの Alice Mullay との会話の中から、自分の唄で音楽セラピーのチャリティー・アルバムを制作するというアイディアが生まれたという。音楽セラピーというと癒やしの音楽をイメージしがちだが、「人生の光と影」的な Gemma の唄は影のある唄であっても、また曲調がミディアムテムポであっても、Gemma のひと言ひと言噛みしめるようなヴォーカルと軽やかなフォーク・ロック風サウンドは光射す優しい音楽に聞こえる。唄の持つ力について、改めて考えさせる唄によるポジティヴな音楽セラピー・アルバム。気分は健やか。裏ジャケにチャリティー番号が記されている。2019 作。Gamma Anderson)

*NIGEL KENNEDY:Kafka a

(ヴィヴァルディの「四季」やジャズやジミヘンの作品をフィーチャーしたアルバムなどクラシック、ジャズ、ロック等ジャンルを超えたスーパー・ヴァイオリン奏者 Nigel Kennedy の 1996 作。自分のライヴを「ギグ」と呼ぶ彼の音楽は、トラッドやロックのフィドラーのノリの音楽。あらゆるジャンルの音楽を包含するほど多彩な響きを奏で、緩急自在で超絶。共演者には Danny Thompson や Rory McFarlane やカナダの女性 SSW の Jane Siberry も。20 数年前の音楽なのに、今も輝いている。1996 作。Canada EMI。検品してお送りします)

*MIKE HANRAHAN:What You Know B

(Stockton's Wing の元フロントマンの Mike Hanrahan の 2002 年作。プロデュースは Tír Na NÓg、Scullion の Sonny Condell。全曲自作曲か Sonny Condell 他との共作曲。レイドバックというか、独りの時間を愉しむような浮遊感と夢心地さが心地よい。適度のフォーク・ロックっぽさも心地よい。2002 作。Dinky)

*SONNY CONDELL:Backwater Awhile ¥1000

(Tír Na NÓg、Scullion の Sonny Condell の触ると壊れそうなくら優しい唄の世界。奇跡の SSW アルバム。w.Garvan Gallagher{ﾍﾞｰｽ、ヴｫｰｶﾙ},Eddie McGinn{ﾄﾞﾗﾑｽ}他。ラップ包装なしの中古の新品で、輸送上のトラブルでジャケットの中心にディスクの輪の痕がうっすら付いています。2001 作。Backwater)

*JASON O'DRISCOLL:Dharma a

(アイルランドの SSW の Jason O'Driscoll の 2003 年作。素直で緩やかな唄が心地よい。2003 作。Jason O'Driscoll)

*NILS LOFGREN BAND:Live D

(Nils Lofgren Band～N.Lofgren、Timm Blery{ﾄﾞﾗﾑｽ}、Buck Brown{ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ、ｷﾞﾀｰ、ヴｫｰｶﾙ}、Wade Matthews{ﾍﾞｰｽ、ヴｫｰｶﾙ}～の 2002 年、米国メリーランド州アナポリスでの二枚組ライヴ。"I Dont Wanna Talk About It"、"First Time Ever I Saw Your Face"等を含む全 23 曲。Nils Lofgren はいつもかっこいい。2003 作。

Hyperension。検品してお送りします）

*LORRAINE JORDAN:Send My Soul　B

（両親がアイルランド人でウエールズ生まれの女性 SSW の Lorrane Jordan の新作は、いつの間にこれほどの SSW に成長したの？！と耳を疑うほど、心動かされる唄の連続。他作曲とは言え、輝く唄を発表していた頃の Mary Black のような輝きのある唄たち。本当に耳を疑うほど一曲一曲がワンパターンではなく素晴らしく、息が止まるほど唄心も表現力も充実しきっている。珠玉の収録曲 12 曲全曲が自作曲というのも驚きだ。w.Sean Whelan,John Wallace, Steafan Hannigan,Cormac Byrne,etc. 2019 作。Hazellville Music）

*LOUISE CONNELL:Squall Echo Tale　A

（スコットランドの女性 SSW の Louise の本作は、これまでにリリースした三枚のシングルを一枚のアルバムにまとめた 18 曲収録のファースト･アルバム。細やかな神経の行き届いたシンプルでエレガントな美しい音楽と感受性豊かで細やかなニュアンスに富む印象的なヴォーカルは耳に新鮮で、フォーク風だが、ヴァイオリンやチェロが優雅さを演出し、ウクレレやギターが夢っぽさを演出し、エレキギターが爽快さを演出し、新感覚のフォークを超えた独自の音楽世界を創作している。ヒドゥン･トラックに可愛らしい曲が隠されている。ジャケットは英国の著名ヴィジュアル･アーティストの James Marsh によるもの。2019 作。9th Story）

*RACHEL SERMANNI:So It Turns　A

（スコットランドの女性 SSW の Rachel Sermanni の三枚目。スコットランドから離れて、ベルリンの Jazzanova スタジオでライヴ録音された本作は、Rachel のささやくような不思議感のあるヴォーカルは自身のキラキラ感のあるギターなどを伴って、じわりじわりと川のせせらぎ感や森の木漏れ日感が感じられる彼女独特なアンニュイな世界へと誘う。音楽的にはフォークからフォーク･ロックの幅の音楽だが、創作された音楽は Rachel のナチュラル感のあるヴォーカルに呼応して、有機的なナチュラル感があって、Rachel の唄と空気のように一体化している。Rachel Sermanni のサイン入り。2019 作。Rachel Sermanni）

*ODETTE MICHELL:The Wildest Rose　B

（素朴な味わいが素敵なハートフォードシャーを拠点に活動する女性 SSW の Odette の初アルバム。トラッド曲"True Lovers Farewell"以外の曲は全曲 Odette の自作曲。Megson の Stu Hanna のプロデュースによる本作は、ほのかに英国トラッドの香りのする爽やかで、愁いのあるブリティッシュ･フォーク。ある種 70 年代の純良英国フォークとして素直に「良いなあ」と思ってしまう。プロデューサーの Stu に加えて、Phil Beer や Cara Dillon のツアー･メムバーの Toby Shaer のお二人が心から付き添って、野のバラのように美しい Odette の着飾らない唄を優しく引き立てている。2019 作。Odette Mitchell）

*ANY TROUBLE:Live At The Venue　B

（お宝発掘。Christine Collister とのデュオや Richard Thompson Band 参加でも知られる Clive Gregson が結成したパブ･ロック･バンドの Any Trouble の 1981 年のライヴ。Bruce Springsteen 作の"Growing Up"以外の曲は全曲 Clive Gregson 作。Elvis Costello 風のパブ･ロックは清々しい。そして今日の Richard Thompson の

ヴォーカルに似てると思うことしきり。1981 年/1988 作。Line)
*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow B
(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)
*PAUL MILLNS:Unsang Heroes B
(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music)
*IAIN MATTHEWS:Contact C
(2004 年 12 月ドイツでのアコースティックなライヴ。w.Richard Kennedy{ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ},Mike Roelofs{ｴﾚｸﾄﾘｯｸﾋﾟｱﾉ}。"Woodstock"を含む全 14 曲。CD-R 仕様。2007 作。It'sAboutMusic.com)
*ALISON O'DONNELL:Exotic Masks And Sensible Shoes A
(Mellow Candle の Alison O'Donnell の新作。前作"Climb Sheer The Fields Of Peace"の延長線上の独自の「夢のようなドラマ」は本作ではシンプルに深みを増している。2019 作。Floating World)

[CD/FAIRPORT&ALBION FAMILY]



(Fairprt の Shuffle Go と What We Did On Our Saturday)
*FAIRPORT CONVENTION:Shuffle and Go B
(S.Nicol,D.Pegg,Chris Leslie,R.Sanders,G.Conway の Fairport の新作。見開きジャケを開くと皆さんの笑顔。何ですかぁ、皆さんのこの若々しさ。それも肩の力を抜いた晴れやかな若々しさ。軽やかだが、聴かせどころ色々。交互にリード・ヴォーカルを取る Chris Leslie と Simon Nicol の陽と陰の味わいのある純正英国フォークは SSW 系英国フォークとしても凄い魅力{結構泣けますよ！}な上にアイリッシュ{ドニゴールの John Doherty の人生に触発されて作った曲}やモリス・ダンス{C.Leslie が 10 代の頃にモリスダンスを見たときの思い出を曲にしたアルバム・タイトル曲}などのダンス・サウンドを取り入れた軽やかなフォーク・ロックは心を開放的にする。フットワーク軽く、前向きで健やかさや優しさが感じられる Fairport の晴れやかな英国フォーク＆ロックだ。ところで皆さんはお幾つ？2020 作。Matty Groves)
*FAIRPORT CONVENTION
:What We Did On Our Saturday (Double CD) B
(この 2018 年に発売された Fairport の 50 周年記念の二枚組ライヴ盤{2017 年の Cropredy のライヴ}の発売を見逃していた。アルバム・タイトルとジャケットをちゃんと見ずに、二枚目の再発盤と勘違いしていた。で、本作は Richard Thompson,Ashley Hutchings,Iain Matthews,Dave Mattacks,Judy Dyble,Maartin Allcock,

それに Ralph McTell,Chris While,Sally Barker,PJ right 等も参加した Fairport Family が 1970 年代の Fairport Family の名曲の数々を再演したものだが、いやはや一曲一曲に懐かしさを感じると同時に、何より老練ながら心は青春している熱いヴォーカルとこれまた熱いフォーク・ロックが凄い魅力。特に I.Matthews と R.Thompson が張り切ってるご様子。そしてみんなの、そして会場のファンの心の中で間違いなく生きている Sandy Denny が感じられるもの。CD を聴きながら心はライヴ会場へ、そして 70 年代へ。全 25 曲。Matty Groves)

*FAIRPORT CONVENTION:Some Of Our Yesterday A
(副題"Anthology 1985-1995"。23 トラック収録の二枚組。2001 作。Sanctuary。検品してお送りします)

*FAIRPORT CONVENTION:Fairport ― A History B
(Fairport の四枚組ボックスセット"Fairport unConventioNal"の四枚の内の一枚。1967 年～1974 年の間のデモ音源曲やライヴ音源曲 15 曲にそれ以降の貴重音源曲 7 曲を収録した編集盤。2002 作。Free Reed。検品してお送りします)

[CD/ＥＮＧＬＡＮＤ]



(Jacqui & Kevin)



(J.Tabor & Oysterband)

*JACQUI McSHEE & KEVIN DEMPSEY:From There To Here B
(Jacqui McShee に「どう言う経緯で Kevin Dempsey とアルバムを作ることになったの？」と尋ねた。返事なし。J.McShee から小包が届いて開封したら、絵はがきが入っていて、返事が書かれていた。「お互い随分前から知っていたけど、ほんの三年前にフェスで初めて逢って、その時に一緒にやってみようと決めたの。で、Bert Jansch Trebute Concert の時に Kevin と共演したの。私たち二人ともとても楽しかった、音楽家として音楽の交感ができてね。そんなことがあって、一緒にアルバムを作ることにしたの」と美しい文字で書かれていた。そうして生まれた本作は、Jacqui McShee "with Bert Jansch"そして"with John Renbourn"風の英国フォークの音楽性を保持しつつ、Kevin 独自の英国風耽美志向の洗練されたジャズ風味のフォーク・ギターが冴えていて、Jacqui はと言えば、Kevin のギターに安心しきって身を預けるような感じで、シンギングがとても穏やかで円やか。今は Kevin のこのオシャレなギターでうたいたいのって感じで、彼女自身が共演することを心から楽しんでいるように聞こえるし、また Kevin は Jacqui とのコラボということで、Jansch/Renbourn 寄りの音色を意識しているのが感じられる。半数はトラッド曲で、10 曲中 4 曲が二人の共作。二人の音楽的な親密さは四曲もの共作曲が教えてくれている。"Lord Franklin"のコメントには「John Renbourn がうたった私の好きな唄」と。天国の B.Jansch と J.Renbourn はきっと「中々いいじゃん。今の Jacqui には Kevin のギターとヴォーカルがお似

合い」とうなずきあってるに違いない。至福保証。2020 作。Mcdem)

*ROSIE CARSON & KEVIN DEMPSEY:Nightbirds B

(Dando Shaft、Whippersnapper のギター奏者でシンガーの Kevin Dempsey とアイリッシュ系フォーク・シンガーでフィドル奏者の世代違いの男女のデュオ。Kevin は Rosie という美しい花を得て、Kevin の英国フォークの美学を深めた独自の英国フォークを開花させていて、もううっとり。小春日和な日にのほほーんと聴いていたくなる。トラッド曲と自作等の SSW 系の曲が半々。英国フォーク/トラッドの一つの理想型。2016 作。Haystack)

*JUNE TABOR & OYSTERBAND:Fire & Feet B

(Oysterband が June Tabor と組んだアルバムとしては 2011 年作の"Ragged Kingdom"に次ぐ三枚目。本作は 2019 年に行ったツアーに合わせて Oysterband が制作した限定盤で、10 曲中 4 曲はスタジオ録音音源曲で残りの 6 曲はライヴ音源曲。本作に聴くコラボは、シンギングは個性を際立たせるるのではなく、むしろハーモニーやコール＆レスポンスの調和に重きを置いていて、J.Tabor と Oysterband の John Jones のシンギングも音楽も柔和でふくよか。Oysterband のサウンドも重厚感はあっても、エゴなフォークロックに走らない。一枚目の"Freedom And Rain"{1990 作}を聴いたときも、当時英国でライヴを観たときも「J.Tabor は Oysterband に合わそうと無理をしている」感を持ったが、あれからほぼ 30 年。J.Tabor と Oysterband のコラボで、これほどシンギングが生き生きしていて、豊穣な旨みに満ちた英国トラッド音楽を聴かせてくれる日が訪れるとは夢にも思っていなかった。例外曲一曲。Jafferson Airplane 初期のヒット曲"White Rabit"。何とサイケデリック・ロック！観客も大拍手！2019 作。Running Man)





(Peter Knight’s Gigspanner) (Avocet)

*PETER KNIGHT'S GIGSPANNER BIG BAND:Natural Invention B

(元 Steeleye Span の Peter Knight{ﾌｨﾄﾞﾙ、ｳﾞｫｰｶﾙ}がこれほど圧巻な英国トラッド・バンドを結成して活動していたことを知らなかった。バンドメムバーは紅一点のシンガーで、男女デュオの Edgelarks{2019 年作"Feather"は素晴らしかった}の Hannah Martin{ｳﾞｫｰｶﾙ、ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ}と Edgelarks の Phillip Henry{ﾄﾞﾌﾞﾛ、各種ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ}に、John Spiers{ﾒﾛｰﾃﾞｨｵﾝ、ｳﾞｫｰｶﾙ}, Roger Flack{ｷﾞﾀｰ、ﾍﾞｰｽ、ｳﾞｫｰｶﾙ}, Sacha Trochet{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ、ﾍﾞｰｽ、ｳﾞｫｰｶﾙ}の一姫四太郎。曲目は全曲トラッド曲。Steeleye のような高貴な英国トラッドではなく、また Fairport のような王道的な英国トラッドでもない。Hannah の声質が低めでしっとりした感じであること、そして音楽志向がよりトラッド＆ルーツ志向であることなど、独自の英国トラッドを創作していて恐れ入ってしまう。P.Knight がこれほどの音楽を創り出せる才能の持ち主であったことを本作で初めて知った。Hannah が Nic Jones のシンギングから学んだという"Courting Is A Pleasure"{"Penguin Eggs"収

録}は、Hannah の抑制の利いた入魂のシンギングと Peter の入魂のフィドルをフィーチャーしたフォーク・ロックでドラマティックに新たな命を吹き込んでいる。2019 作。GSCD007)

*AVOCET:Lend Your Garden A

(Avocet は 12 歳のときにサマースクールで出逢い、その後 60 年代のフォークやブルースに恋に落ちたという Sam Grassie{ヴォーカル、ギター、エレキギター}の Iona Zajac{ヴォーカル、クラルサッハ}の男女のデュオ。そう、Avocet の名は Bert Jansch のアルバム"Avocet"から。12 曲中、Davey Graham 作"Angie"{本作の曲名は"Angie's Cradle"}の一曲以外は全曲 Avocet の自作曲。なのに Bert Jansch や Pentangle の音楽の香りがふわふわと立ち上っている。二人はこういう音楽に恋い焦がれて、自作の曲を創り、それ風の演奏と唄までやってのけてしまったのだから、凄い。おまけにギターやダブルベース{Ignacio Santoro}という名の奏者}の音はそれ風の音を発し、Iona のヴォーカルはそれ風に壊れそうなくらいデリケートで美しいし、一曲のみでノドを披露する Sam のヴォーカルは Bert Jansch の生き写し。Iona のクラルサッハの音色が夢心地さをましている。誰もが幸せ気分保証。2020 作。Avocet)

*JACKIE OATES & JOHN SPIERS:Needle Pin,Needle Pin B

(Jackie Oates の新作は Spiers & Boden、Bellowhead の John Spiers との共演盤。本作はイングランドのトラッドの豊かさと底力を普段着の演唱で実演した名盤。音楽の主導権は Jackie。Jackie がフィドルやピアノを演奏し、シンギングするのに合わせて、John がヴォーカル・ハーモニーし、メローディオンで共演し響演する。実はこの、Jackie の唄や演奏に寄り添って、ダンサブルな演奏をする John の演奏が本作をふくよかな音楽にしている。音楽の目線は母親になった Jackie の母親＆子ども目線。そうして生まれた音楽は普段の音楽活動の上に育まれたとても心躍り、心和む瑞々しいイングランドのトラッド。自家製見開き紙ジャケの限定盤。CD-R。2020 作。Jackie Oates & John Spiers)

*STEELEYE SPAN
:Live At De Montfort Hall,Leicester,1977 a

(Steeleye Span のラジオ音源のライヴ。メムバーは 1977 年作の"Storm Force Ten"と同メムバーの M.Prior,Tim Hart,Rick Kemp,John Kirkpatrick,Martin Carthy,Nigel Pegrum で、"Storm Force Ten"収録曲 4 曲を含む全 12 曲。既にこの時代から Steeleye 流のフォーク・スタイルは出来上がっていて、違うのは音楽の鮮度と John Kirkpatrick 効果。彼の存在がエレクトリック・ダンス曲を持ち込み、滅茶苦茶ノリの良いカントリー・ダンス風フォーク・ロックを体現していて、英国フォーク・ロックとして濃厚な味わいを発散している。Maddy Prior のシンギングも、また伊達男四人等によるヴォーカル・ハーモニーも若々しく、そしてまぶしい。1977 年/1978 年/2019 作。SFM)

*THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime A

(Anthony Ingle,Graeme Taylor,Michael Gregory,Jon Davie の四人のツワモノによって結成された The Cannon Hill Irregulars なる英国フォーク＆カントリーダンス・バンドのフォーク・ロックの何と魅力的で楽しいこと！Albion Dance Band～Albion Band 系イングランド・スタイルのフォーク・ロックの心髄と言うとかたぐるしくなるが、その心髄をヴォーカル・スタイルや音楽

の隅々に盛り込んだような美味し過ぎるフォーク･ロック。感動の嵐。2019 作。Talking Elephant)

*SANDRA KERR:Rebels With Her Chords B

(自身のコンサーティーナの弾き語りに娘の Nancy Kerr がハーモニーで加わった自作曲"Young Girl Upon The Road"で始まるヴェテラン･フォーク･シンガーの Sandra Kerr の本作は、イングランド北東部の伝統音楽をベースにした Sandra 流に消化されたトラッド･スタイルで、トラッド曲や自作曲を N.Kerr & James Fagan 夫妻と一緒にホームメイド感覚で演唱する。その、例えば自宅の庭で生演奏するようなオープンな感覚がすこぶる気持ちよい。2019 作。Sandra Kerr)

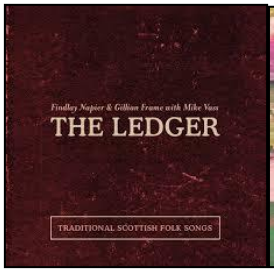
*THOM ASHWORTH:Head Canon A

(Folk Radio は「現代の Martin Carthy」と絶賛するイングランドの若きトラッド･シンガーの Thom Ashworth の比類なき新作。毅然としたシンギングが素晴らしいトラッドの名曲"High Germany"で幕開けする本作は、Thom の揺るぎないシンギング、それも荒野に立ち、遙か彼方に向かってシンギングするかのような見事なシンギングに骨抜きにされる。渋いフィドルの伴奏であろうが、無伴奏であろうが、またフォークロック調であろうが縦横無尽。名作誕生。2019 作。Thom Ashworth)

*ROOT & BRANCH 1 "A New World" C

(厚紙製パッケージが劣化した中古状態の新品。英国の EFDSS 制作の CD ジャーナル。本作のテーマはかつて国境や言語や文化といった様々な垣根を越えて伝承されて現在も歌い続けられている伝統歌を紹介したもの。Cara Dillon, A.L.Lloyd, Doc Watson, Cathal McConnell, Paul Brady, Walter Pardon ほかによる全 20 曲。ちなみに一曲目"Van Diemen's Land"{タスマニア島}は、本作のために Cara Dillon が無伴奏でうたっていて、二曲目ではスコットランド･ヴァージョンを Enoch Kent が無伴奏でうたっている{やや Dick Gaughan 風}。1999 作。EFDSS)

［CD/ＳＣＯＴＬＡＮＤ系］



(The Ledger)



(Sian)



(雨のち桜)

*FINDLEY NAPIER & GILLIAN FRAME WITH MIKE VASS
:The Ledger B

(1950 年代後半から 60 年代初めに新聞"The Scotsman"にスコットランドの伝統音楽の紹介記事が載ったという。その記事を書いたのは民俗学者の Norman Buchan。後にその記事から出版されたのが"101 Scottish Folks Songs"{昔販売しました}。Findley の祖父はその記事をノート"Ledger"に切り貼りしていて、本作は切り貼りされた伝統歌の中から 10 曲{ブックレットにその記事が掲載されている}を Findley & Gillian のシンギングと三人の伴奏で愛情深く演唱したもの。Findley のシンギングは柔和ながら毅然

としていて、Gillian のシンギングは気品があって優美。この全くの理想のシンギングがハモるとスコットティッシュ・トラッドの旨みが一段と増す。しかも高弦ギター、テナーギター等の各種ギターを軸にフィドルで彩りを付けた伴奏は、二人のシンギングを気高く浮き立たせていて、音楽全体の質を高めている。いやはや二人のシンガーのシンギングには惚れ惚れしてしまう。これぞスコティッシュ・トラッド・ソング！名盤誕生。2020 作。Cherrygroove)

*SIAN:Sian B

(Sian は Dàimh のヴォーカルの Ellen MacDonald とスカイ島の出身で Royal National Mòd のゴールドメダリストの Eilidh Cormac と同じく Royal National Mòd のゴールドメダリストの Ceitlin Lilidh の女性ヴォーカル・トリオで、本作はデビュー作。収録曲 12 曲全曲スコットランド・ゲール語によるスコティッシュ・フォーク＆トラッド。スコットランド・トラッド・シーン生え抜きの三人の歌姫による本作は、Capercaillie がデビューした頃のスコティッシュ・トラッドの新鮮さが感じられる 1980 年代トラッド回帰的にフレッシュな女性シンギング・アルバム。そうした趣向はプロデューサーの Donald Shaw の手腕が働いてのことは言うまでもない。Donald Shaw はトラッド・シンギングの極意を自然に体得している彼女達のソロやハーモニーを誠実に引き立たせる音楽作りに神経を注ぎ込んでいて、結果スコティッシュ風な自然なグルーヴを生み出している。フィンランドのヴァルティナを想起させる歌声などもあって、現代っ子シンガーの一面を垣間見せる。梅雨の日に窓から爽やかな風が入ってきた感じだ。Innes White の鮮やかな伴奏ギターが耳に残る。2020 作。Sian Music)

*HILARY DE VRIES:雨のち桜 B

(スコットランドの女性ハープ奏者ヒラリー・ドゥ・ヴリースの金属弦の小型スコティッシュ・ハープ"クラルサッハ"によるハープソロ。音楽はカナダの詩人 Robert MacLean が日本を舞台に詠んだ詩に Hirary が曲を付けて演奏したもので、曲数は 24 曲。音楽は静寂感があって日本情緒が感じられるものだが、一音一音にキラリ感のあるきらびやかな音色は、光に当たって輝く雨つぶや清らかな水の流れのような印象で、クラルサッハならはの美しい音楽の世界が創り出されている。もちろんその音楽は日本の桜や四季の彩りや風景などをテーマにした詩を味わう感性と作曲家としての才能と演奏力があってのことだが。ハープの音はチターの音のようにも聞こえる。心が洗われるような音楽。短い解説文には日本語訳が付いている。2020 作。Boarstone)

*SALT HOUSE:Huam A

(スコットランドの古いバラッドや詩をヒントに独自のハイセンスなスコティッシュ・フォーク/トラッドを創作する Salt House ～SSW でマルチ楽器演奏家の Jenny Sturgeon{ヴォーカル、ハーモニウム、ギター、ピアノ他}と Rant のメムバーの Lauren MacColl{フィドル、ヴィオラ、ヴォーカル、グロッケンシュピール}と Shooglenifty のメムバーの Ewan MacPherson{ヴォーカル、アコースティック&エレキギター、ダルシマー}と}の新作。アルバム・タイトルの Huam は「夏の暖かい日のフクロウのうめき声」という意味らしい。これまであまり意識しなかったが、Jenny のシンガーとしての魅力。一曲目の Fire Light"をはじめ、スコティッシュの香りを放ちつつも、Sandy Denny のイメージとどこ

となく重なるヴォーカルと曲調。同じ Hudson Records からアルバムを発表している Karine Polwart 並に天賦の才を有するスコティッシュ･シンガーであると確信した。本作は 19 世紀～20 世紀の詩人の詩をヒントに作詞作曲された唄が中心だが、鳥類生物学者でもある Jenny の生き物や野性への共感が音楽にも感性豊かに反映されていて、唄も音楽もとても細やかで彩り豊かで神秘的で耳に新鮮。二番手シンガーの Ewan の穏やかなシンギングが本作に厳かな平穏さを添えている。スコティッシュ･トラッドの豊穣さから産まれた静かな名盤。2020 作。Hudson)

*NORTHERN FLYWAY:Northern Flyway A

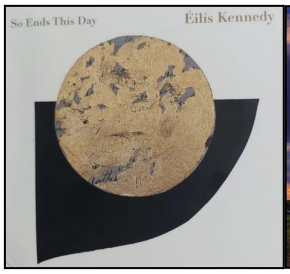
(Northern Flyway は Salt House の Jenny Sturgeon{ヴォーカル、アーモニウム、ダルシマー}とシンガーでマルチ楽器演奏家の Inge Thomson{ヴォーカル、アコ、親指ピアノ、フルート、シンセ、ウェーブドラム他}の二人が立ち上げた鳥保護音楽プロジェクト。鳥の鳴き声も取り込んだ本作は、同じレーベルから発売された Karine Polwart{Inge Thomson は Karine Polwart Band のメムバー}の自然環境保護への思いを込めた"A Pocket Of Wind Resistance"と通底する夢のように清々しいスコティッシュ･フォーク/トラッド･アルバム。w,Jason Singh, Sarah Hayes。2018 作。Hudson)

*JENNA CUMMING:Tàladh - Gaelic Lullabies C

(収録曲 13 曲全曲スコットランドのゲール語の子守歌。そのほとんどは古謡で無伴奏。不思議なことに、Jenna のシンギングは全くと言ってよいほど無伴奏であることを忘れさせる美しさ。その美しさは言葉では表現出来ない母親がわが子を思うような深い美しさ。数曲オルゴールや古いハープの響きのような伴奏を伴った子守歌が収められていて、すっかり和んでしまう。静かな空気感の中で響 きわたるゲール語の唄の響きとともに夢の中。2017 作。Clann Sona)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系]

デジパック･タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。





(Éilís Kennedy) (Michael & Shay Black)

*ÉILIS KENNEDY:So Ends This Day B

(ヴェテラン･アイリッシュ･シンガーのÉilís Kennedy の新作は、1800 年代の手紙や日誌などをもとにÉilís が新たに作詞作曲した５曲と古い伝統歌による全９曲が収録されていて、1800 年代の捕鯨漁師達の世界{国に残された女房や船上の女房や向こう見ずの若者や勇ましい船長や船の難破や救助や絶望の中の希望等々}へと優しく誘う。船乗りにまつわる唄だが、船乗りの唄、いわゆる「シーシャンティ」とは趣を異にする。むしろ陽と陰くらいに対象的で、感情を押し殺したようなÉilís のシンギングは、19 世紀に海で生きた人々の悲喜交々が、浜辺に静かに打ち寄せる波のように

心に迫ってくる。それらの唄は鎮魂歌のように聞くこえないでもない。そう感じられるほど心は過去の世界に飛んでいて、Éilís の唄は、凛として清く美しい。ささやかな喜びの唄には心ほぐされもする。鯨の泳ぐバフィンズ湾へと船出したフランクリンと勇敢な乗組員の物語"Lord Franklin"をÉilís は"Franklin's Crew"とタイトルを変えてうたっているが、これはもう息が止まるほど素晴らしい。この曲の伴奏もそうだが、本作のプロデューサーの Gerry O'Beirne の各種ギターによる繊細極まりない伴奏の妙はいくら誉めちぎっても褒めたりない。w.Eamon McElholm, Shaun Davey, Rita Connolly, Trevor Hutchinson。名盤誕生。2010 作。Éilís Kennedy)

*MICHAEL AND SHAY BLACK:Glackanacker B

(Black Family の Michael & Shay Black 兄弟の新作。プロデューサーに John Doyle を迎えて、Mike McGoldrick, John McCusker, Mick McAuley, Eamonn Flynn 等の名高い演奏家と Ciara, Martin, Frances そして Mary に、France Black の娘の Aoife Scott 等の文字通りの Black Family の"Singers"の強力バックアップで制作された本作は、ブラック家の親族が一堂に会して、Michael & Shay の兄弟がうたって、妹たちや姪などが仲間入りしてうたったもので、リードを取る Michael & Shay の兄弟のシンギングたるや堂々として優しくそして大らか。そして主役の兄弟のみならず、"Singers"のアイリッシュ・ソングへの並々ならぬ愛情が感じられるもの。そして大半の曲でギター、ブズーキ、ベース等で卓越した伴奏を付ける John Doyle のセンスがアイリッシュ音楽としての音楽の質を高める効果を果たしている。この兄弟がいて、Mary & Frances の姉妹あり。歌心満開。2020 作。The Black Brothers)

*SHAY, MICHAEL & MARTIN BLACK:What A Time A

(1995 年録音のブラック・ファミリーの三兄弟のアルバム。Produced by Maire Breatnach。w.Maire Breatnach, Mairtin O'Connor, Tommy Hayes, Neol Eccles, Garvan Gallagher, Greg Boland, Seamus Brett 他。1995 作。Dara)

*MICHAEL BLACK:Michael Black A

(2007 年リリースの Michael Black のソロ。w.John Doyle, Seamus Eagan, Liz Carroll, John Williams に Black Family 他。Compass)

*JOHN DOYLE:The Path Of Stones A

(元 Solas そして Usher's Island そして現在 John McCusker と Mike McGoldrick の二人とトリオで、そして Mike と組んで活動しているアイリッシュ・シンガーでギター奏者のの John Doyle の 9 年振りのソロ。本作は、主役の J.Doyle のギター等の弾き語りをベースにした唄一曲か二曲に自身のギターやブズーキをフィーチャーしたダンス曲のメドレーを挿入した構成で、勢いヴェテラン・アイリッシュ・トラッド・シンガーそしてアイリッシュ・ギタリストとしての並々ならぬ魅力が浮き上がっている。円やかなシンギングといい、粒立ちの良いギター等の演奏といい、Andy Irvine に似てきた。ゲスト:Cathy Jordan。2020 作。Compass)

*JOHN DOYLE & MIKE McGOLDRICK
:John Doyle & Mike McGoldrick B

(Solas～Usher's Island の John Doyle{ｷﾞﾀｰ、ﾌﾞｽﾞｰｷ、ｳﾞｫｰｶﾙ}と Capercaillie～Usher's Island の Mike McGoldrick{ﾌﾙｰﾄ、ﾎｲｯｽﾙ、ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ、ｳﾞｫｰｶﾙ}の新作。コピーライトは 2018 作。なめらかな

M.McGoldrick のフルートの演奏とピリ辛の利いたソリッドな J. Doyle のギターによるリール曲三曲のメドレーで爽快に幕開けする本作は、様々なタイプのアイリッシュを余裕綽々の名演奏で楽しませる。演奏の豊かさのみならず、三曲でノドを振るわす J. Doyle のシンギングが素晴らしい。Peter Bellamy や Kate Rusby のシンギングで知られるトラッドの名曲"Lovely Willie"は Andy Irvine のような柔和な味わいがあって絶品。旨みたっぷりのアイリッシュ。Boxroom Music)

*MIKE McGOLDRICK & DEZI DONNELLY:Dog In The Fog B

(1995 年の"Champions Of The North"以来、二人による二作目。2018 作。Boxroom Music)

*YE VAGABOND:Hare's Lament C

(Ye Vagabond は Brían & Diarmuid Mac Gloinn の兄弟デュオ。本作収録のアイルランドの伝統歌は祖父のアーカイブ音源から学んだという。その音源が何かは分からないが、彼らがブズーキ、ギター、マンドリン、フィドルの伴奏で自然体で創り出すアイリッシュ・フォークは、70 年代の Andy Irvine や Paul Brady や 70 年代の英国のトラッド・シンガーを想起させる。トラッドの名曲"Willy O Winsbury"などは僕の耳には Ann Briggs のシンギングと重なる。2019 作。River Lea)

*JIMMY CROWLEY:Some Things Never Change B

(コークのトラッド・シンガーでフォーク収集家の Jimmy Crowley の 1981 リリースの三枚目。バックは Declan Sinnott{ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰでもある},Christy Moore, Keith Donald,Brian Calnan{以上 Moving Hearts}に Mick Hanly,Johnny Campbell,Mandy Murphy{素敵な女性ｼﾝｶﾞｰです}。Jimmy のトラッドのアプローチは SSW 的。自己流に昇華してフォークからフォーク・ロックの範囲で自在にうたいこなしていて、唄があったかい。今ではアイルランドのパブ・セッションの定番になった"An Invitation To A Funeral"は Christy Moore のバウロンの伴奏で見事なリルティングで息をのませる。本作は Mícheál Ó Domhnaill に捧げられている。ディスクは LP のデザイン。1981 年/2006 作。Free State Music/LP 原盤は Mulligan)

*MARTIN DONNELLY:Stone And Light B

(北アイルランドの SSW の Martin Donnelly の 1995 年発売の一枚目。Christy Moore のような味わいのある SSW で、Mary Black がうたったらよさそうな心に響く唄ばかり。昔よく聴きました。w.Maire Breatnach,Rod Mcvey,James Blenner-hassett,Liam Bradley, Brendan Monaghan,。Round Tower Music)

*FRANKIE GAVIN WITH THE CARL HESSION ORCHESTRA
:Shamrock & Holly C

(限定入荷。クリスマス曲全 14 曲。2013 作。Tara)

*KEVIN KEEGAN:The Music Of Kevin Keegan C

(お宝発掘。1924 年東ゴールウェイ生まれで米国ツアー中に米国に移住したという Aughrim Slopes Ceili Band{1950 年代活躍}のアコ奏者の個人録音やラジオ音源からの貴重録音集。回転が速いんじゃない？と思えるほどの早弾き。全 23 トラック。2004 作。Clo Iar-Chonnachta)

*CIARAN TOURISH & KEVIN DOHERTY:Hotel Fiesta B

(Altan のフィドル奏者でマルチ楽器奏者の Ciaran Tourish と Four Men And A Dog のヴォーカル兼ギター奏者の Kevin Doherty のコラ

ボ。予想通りのCiaranのフィドル又はフルートとKevinのギターによるアイリッシュとKevin Dohertyのヴォーカルをフィーチャーした米国フォーク/SSWタイプの曲が混在。百戦錬磨のCiaranのフィドルはアップテンポでスリリングなアイリッシュから、Kevinの米国風音楽にすり寄って渋いアイリッシュまで自由自在。2019作。MIG)

*KEVIN DOHERTY:Strange Weather ¥1290

(米国のウッドストックにあるLevon Helm Recording Studioで収録のFour Men And A DogのKevin Dohertyのソロ。若い頃のKevinのナイーヴな感性が光るSSWアルバム。Produced by Aaron Hurwits。ゲスト:Rick Danko,Amy Helm。1999作。Key Recordings)

*BIRKIN TREE:Five Seasons B

(イタリアのアイリッシュ・ミュージック・バンドのBirking Treeの驚きの新作だ。全曲でパイプ奏者のMick O'Brienの娘でRTE RnaGフィドル・コンペティションで優勝経験のあるフィドル奏者のAoife Ní Bhriainがバンドの一員となって、いやむしろリーダーシップを発揮して演奏して制作されたもので、フィドルをメインにしてフルート、ホイッスル、イリアンパイプス、ギターなどのセッションから生み出されるアイリッシュの何とハイレベルなこと！ダンス曲ではハイレベルなセッションを繰り広げ、エアー曲では感情のこもった演奏で心底酔わせる。加えて、新加入のヴォーカルのLaura Torteirolo嬢のアイリッシュ・スタイルの佳麗なシンギングが滅茶苦茶素晴らしく、息をのむ。2019作。Felmay)

*BIRKIN TREE:Virginia B

(Martin Hayes & Dennis Cahillがゲスト参加のBirkin Treeの2010年のアルバム。2010作。Felmay)

*GOITSE:Ur C

(Áine McGeeneyがヴォーカルの一姫四太郎の五人組アイリッシュ・バンドのGoitseの五枚目。Áine McGeeneyの高音の軽やかで佳麗なシンギングは、Karan Caseyのシンギングに透明感が加わった感触で相変わらず抜群だし、新メムバーにバンジョー＆ブズーキのAlan Reidが加わったものの、バンジョー、バウロン、フィドル、アコーディオン、ギター、ホイッスルなどによる路上演奏しているような生き生きとしたアイリッシュ自体には変わりがなく、前作同様、演奏に遊び心というかひと工夫あって、結果的に他のバンドにはないひと味違う演奏を奏で出していてお見事。2019作。Goitse Music)

*SIBEAL:Sibéal ¥2390

(ゲールタハトで育ったという若き女性シャンノース・スタイルのシンガーのSibéal Ní Chasaideの息をのむデビュー作。w.Steve Cooney,Tommy Hayes,Briocan Bairead,Geraldine O Doherty,Gucci Gelald Peregrine,Niadh & Roisin Ní Chasaide。2019作。Universal)

*KATE PURCELL:A Dream Unfolds... A

(アイルランドの女性SSWのKate Purcellの1997年作。彼女のふんわりとして夢のある唄は夢の小道を歩くように夢心地。Mary Blackを円やかにした感じで胸キュン。w.Jimmy Faulkner, Josephine Marsh,Tommy Hayes,Liam Lewis,Noel Barrett,etc. Produced by PJ Curtis。ラップ包装なしの中古の新品。1997作。Dream)

*LIVE RECORDINGS FROM THE WILLIAM KENNEDY PIPING FESTIVAL C
(Michael McGoldrick,Kathryn Tickell,Mick O'Brien,Cillian Vallely,Tommy Keane,Robbie Hannon,Ceri RhysMatthews, Gordon Duncan 等のパイパーによるライヴ集。全 20 トラック。2002 作。William Kennedy Piping Festival)
*MICHAEL COONEY:A Stone's Throw(2003 作。Gortnahue) C
*JASON O'ROURKE:The Bunch Of Keys A
(副題"Irish Concertina Music"。2000 作。Outlet)
*SKIPPER'S ALLEY:Skipper's Alley B
(2014 作。Skipper's Alley)
*GERRY O'BEIRNE:Half Moon Bay B
(繊細系 SSW アルバムの名盤。オリジナル盤は 1997 年のコピーライトだが、本デジパック版は 1999 年のコピーライト。Gerry O'Beirne)
*GATEHOUSE:Down The Moor A
(ゲール語と英語の両方でオールアールランド・チャンピオン・シンガーの歌姫 Rachel Garvey を擁する二姫二太郎のアイリッシュ・グループ"Gatehouse"の二枚目。余裕綽々の大横綱級アイリッシュ。ゲスト:Alan Kelly,John Joe Kelly,Michael McCague,Conor & Paddy McEvoy。Matt Molloy と Altan のマレードが絶賛。2019 作。Gael-Linn)
*CHERISH THE LADIES:Heart Of The Home A
(Nollaig Casey{ﾌｨﾄﾞﾙ}が準メムバーとして参加の Cherish の本作は、アイリッシュ・シンガーの Kate Purcell にオールアイルランド・チャンピオン・シンガーの Molly O'Riardan のほか Nathan Carter、Don Stiffe、Ennis Sisters などをゲスト・シンガーに迎えて、まるで音楽を通して涙あり、笑いありのライヴ・ショーを観ているような、あの手この手で、様々なアイリッシュ・ミュージックを楽しませる。ゲスト:Donnchadgh Gough{Danú},Trevor Hutchinson {Lúnasa}。2018 作。Cherish The Ladies)
*JOHNNY ÓG CONNOLLY:Aisling Yoshua(Joshua's Dream) C
(Johnny Connolly の息子の Johnny の 2011 年のアルバム。いやはやノリに乗ってる。清々しく若々しい。メチャ最高。w.Brian McGrath ,Mick Conneely,Garry Ó Briain,Frank Kilkelly,James Blennerhasset そして Jonny Connolly。2011 作。Og Music)
*BACKWEST:Heritage Hall A
(ゴールウェイを拠点に活動する Backwest～Maureen{ﾌｨﾄﾞﾙ、ｳﾞｫｰｶﾙ} & Brendan{ｱｺ} Browne 兄妹に Fabian Joyce{ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ、ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ}と Lord Of The Dance の Peter Vickers{ﾊﾞｳﾛﾝ他}～の新作。Maureen & Brendan 兄妹によるフィドルとアコのコラボを音楽のコアにして、ギターとバウロンが共演＆競演＆饗宴する仕掛けのアイリッシュだが、兄妹のフィドルとアコの変幻自在なジャンプ力ある演奏は神業レベルで、二人の阿吽のコラボを聴いているだけで、身体が熱くなってくる。おまけに Fabian Joyce のシンギングは心にグサっ。百戦錬磨の貫禄のアイリッシュ。2018 作。Backwest Music)
*EILEEN GANNON:The Glory Days Are Over A
(アイルランドの「フラキョー」をはじめ数々のハープ・コンテストで賞を受賞という彼女のハープ演奏は、魔法の指と思ってしまうくらい、様々な、どんなリズムのアイリッシュ・ダンス曲をも見事

に弾きこなす。最高レベルの模範演奏。13 トラックの 24 曲。
2018 作。Eileen Gannon)
*JAMES KEANE:Heir Of The Dog a
(ニューヨークを拠点に活動するヴェテラン･アコ奏者の James Keane の 2012 作。各種ダンスの数々は年代、地域、様々だが、それぞれにノリのよいダンス曲として、小気味よくも力強い。w.Eamon O'Leary,Kathleen Boyle,Tom English。2012 作。New Folk)
*THIS IS HOW WE FLY:This Is How We Fly A
(アイルランド人フィドル＆ハルディングフェーレ奏者の Caoimhin O Raghallaigh とクラリネット奏者の Sean Mac Erlaine とスウェーデン人パーカッション奏者の Petter Berndalen そして米国人ステップ･ダンサーの Nic Gareiss の四人グループ。Caoimhin と Sean がソロで、また二人奏でる音楽は、Martin Hayes の音楽をさらに自由に膨らませたような音楽。エアー曲などは悠久の調べと化している。2013 年。Play With Music)
*BAIDIN FHEIDHLIMI - Gael Linn Singles 1968-1980 A
(Johnstons,Sean O Se,Ro-og Breandan O Duill&Skara Brae, Triona Ni Dhomhnaill,Maighread Ni Dhomhnaill,Michael O Domhnaill&Donal Lunny,Dermot O'Brien 他。Gael Linn の稀少音源からの全 20 トラック。2013 作。Gael Linn)
*ANDREW MURRAY:Hell Or High Water A
(Tommy Fleming の後釜のシンガーとして De Danann に加入したイニシュボフィン島出身のトラッド･シンガーの 2005 年作。Len Graham から習ったというトラッド曲二曲に Richard Thompson,Dougie MacLean,Ewan McColl 等のナムバーを朗々とシンギングする。w.Gavin Raiston,Aogan Lynch,Geoff Woods,Tim O'Brien,etc. 2005 作。Andrew Murray)
*FRANKIE GAVIN,RICK EPPING & TIM EDEY
:Jigging The Blues A
(F.Gavin の今度のお楽しみ会はアイリッシュのブルース仕立。共演者 Rick Epping{ﾊｰﾓﾆｶ、口琴、ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ}とアイリッシュ･ギター名手の Tim Edey。F.Gavin 主宰のアイリッシュ･ミュージック･パーティーにブルース･ハープ奏者が乱入？。パーティーは大盛況。2008 作。Greentrax)
*BILLY CLIFFORD:Echoes Of Sliabh Luachra B
(w.Maire Begley{ﾋﾟｱﾉ}。全 39 曲/20 トラック。WMC-001)
*KEVIN CREHAN:An Bhabog Sa Bhadog D
(副題"Music From West Clare"。2001 作。J.A.Records。検品してお送りします)
*MOHER:Out On The Ocean(1991 作。CBM) D
*SARRON SHANNON:The Acoustic Tour(2003 作。Daisy) B
*JOE HEANEY
:Irish Traditional Songs In Gaelic And English C
(1963 年録音。1989/2002 年のコピーライト。Ossian。検品してお送りします)
*JOHNNY DORAN:The Master Pipers Volume 1 C
(2003 作。Na Píobairí Uilleann)
*SEAN McALOON:Stor PioBaireachta C
("Piping From The Archives"。2004 作。Na Píobairí Uilleann)
*HARRY BRADLEY:Bad Turns & Horse-shoe Bends C

(1999 作。Outlet)
*MATT McGRANAGHLAN:In Goldfiddle(2003 作。MMG007)　A
*RE-JOYCE "Tunes And Songs From The Joyce Collection"　C
(Jackie Daly,Maire O'Keeffe,John Faulkner,Donal O'Connor の
４名による Joyce Collection からのダンス曲と唄。2003 作。
Rejoyce)
*LONRADH:Whispering Sounds(2010 作。Lonradh)　C
*JOHNNY DUHAN:Just Another Town(1992 作。Bell)　B
*JOHNNY DUHAN:Don Quixote(2008 作。Bell)　B
*JOHNNY DUHAN:The Burning Word(2014 作。Bell)　B
*GAVIN WHELAN:In Full Flight(2009 作。Tara)　A
*JOHN BLAKE,LAMOND GILLESPIE,MICK LEAHY
:The Traditional Irish Music From London　B
(2003 作。Archway)
*JOHN GORDON:The Humours Of Glendart　B
(Traditional Irish Music Played On The Fiddle。2005 作。JGCD01)
*JOHN DALY:Irish Traditional Fiddle(2003 作。Ossian)　B
*SEAN MAGEE:Ye Fidlers Fate　B
(タイトルは Fiddlers ではなく Fidlers となっている。All Ireland
Fiddle Champion。発売年不明。SMGCD-1001。CD-R。)
*THE WEST OCEAN STRING QUARTET:As Fond Kiss　C
(ゲスト:Maighread Ni Dhomhnaill。2009 作。West Ocean)
*MATT MOLLOY:Matt Molloy　C
(英国盤。1976 年。Mulligan)
*BOTHY BAND:Out Of The Wind And Into the Sun(Mulligan)　a
*BOTHY BAND:After Hours(Mulligan)　a
*MARTIN HAYES:Martin Hayes(Green Linnet)　a
*MARTIN HAYES & DENNIS CAHILL:Under the Moon　a
(Green Linnet)
*MARTIN HAYES & DENNIS CAHILL:Lonesome Touch　a
(Green Linnet)
*MARTIN HAYES & DENNIS CAHILL:Welcome Here Again　a
(Green Linnet)
*KEVIN BURKE & MICHEAL O'DOMHNAILL:Promenade(Mulligan)　a

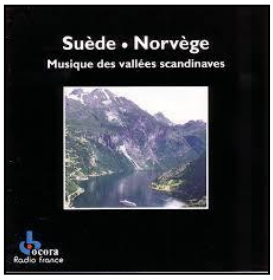
[CD/ＵＳＡ{ﾄﾗｯﾄﾞ､ｵｰﾙﾄﾞﾀｲﾑ他}]
*ELIZABETH ROGERS & EUGENE FRIESEN:Down In Yon Forest　B
(副題"Songs Of Christmas & Winter"。新感覚のケルティックな
クリスマス･アルバム。米国ヴァーモントを拠点に活動する女性
SSW のシンギングはケルトを夢想する北米の女性シンガーらしい
クリスタルな輝きのあるシンギング。Paul Winter Consort のメ
ムバーの Eugene Friesen が新感覚のディープな味わいのあるチ
ェロの伴奏で､厳かで深みのあるケルティックなクリスマス･ア
ルバムを創作している。ケルティックなセンスはカナダの
Loreena McKennitt に通じるが､チェロのサウンドがオリジナル
性を高めている。Loreena もアルバムに収録しているクリスマス･
キャロル"Drive The Cold Winter Away"他全 10 曲。2019 作。
787340 Records)
*GEORGIA KELLY & DUSAN BOGDANOVIC:The Journey Home　A
(女性ハープ奏者と男性クラシック＆ジャズ･ギター奏者によるニ

ューエージ･ミュージック。全７曲中３曲がユーゴスラビアの伝統曲で、極上のアラブ＝東欧風に異国情緒な夢見心地音楽。1989 作。Global Pacific。本 CD は昔米国盤 CD で一時期流行った縦長のプラスティック製パッケージ仕様ですので、解体し、通常 CD 仕様にてお送りします）

［CD/ＣＡＮＡＤＡ{トラッド他}］

*LOREENA McKENNITT:Live At The Royal Albert Hall　　A
（Loreena の新作は二枚組ライヴＣＤ。ディスク１は 2019 年３月 13 日に行ったロンドンの Royal Albert Hall でのライヴで全 10 曲。ディスク２は彼女の Online Store で購入できるライヴ音源曲からの全 10 曲。ディスク２はボーナスＣＤのつもりなのだろうが、Loreena の音楽の魅力がきっちりと収められていて、これはこれで完璧。Loreena は芸術家ですね。2019 作。Quinlan Road）

［CD/ＳＣＡＮＤＩＮＡＶＩＡ］



（Suede･Norvege。旧譜）

*SUEDE･NORVEGE:Musiques Des Vallees Scandinaves　　C
（余り知られていない北欧トラッドのスタジオ･ライヴ盤で名盤。出演者は Frifot の Lena Willemark{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾌｨﾄﾞﾙ}, Ale Moller{ﾏﾝﾄﾞｰﾗ､ﾌﾙｰﾄ}, Per Gudmundson{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｺﾙﾇﾐｭｰｽﾞ}の三名とノルウェー屈指のトラッド･シンガーの Kirsten Braten-Berg とハルディングフェーレ奏者の Gunnar Stubseld の五名。スウェーデンとノルウェーのトラッド･ミュージシャンによる共演ライヴで、前半はスウェーデン、後半はノルウェーのミュージシャンをフィーした演唱。Lena と Kirsten のデュエットも数曲。北欧トラッドが初々しい。全 31 トラック。ブックレットがやや劣化気味。1993 作。Ocora）

*TRITULEN:Tritulen　　a
（Ebba Jacobsson{ｳﾞｫｰｶﾙ}, Anette Thorsheim{ｱｺ､ｳﾞｫｰｶﾙ}, Jonas Åkerlund{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ}の二姫一太郎のトリオ。スウェーデンとノルウェーの西海岸の暮らしの中にある伝統的な音楽を演唱したもので、Ebba の柔和なシンギングといい、素朴ながら軽やかで北欧トラッドの香り豊かな音楽といい、幸せ気分の北欧トラッド。2012 作。Etnisk Musikklubb）

［CD/ＳＷＥＤＥＮ］

*SVANEVIT:Gryning　　A
（Anna Rynefors, Erik Ask-Upmark に Maria Persson{ﾌｨﾄﾞﾙ､ﾌﾙｰﾄ}と Anders Larsson{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾏﾝﾄﾞｰﾗ}が加わった４人組。彼等はスウェーデンの伝統音楽の精神的にも音楽的にももっとも純粋な部分に重きを置き、スウェーデン･トラッドの香り高く清々しく

演奏し、Anders が見事なシンギングで酔わす。彼等ほどその伝統性と純粋性を健やかに保持したグループはいないと思ってしまうほど凛として清々しい北欧音楽だ。2005 作。英語解説付。Westpark。検品をしてお送りします)

*AHLBERG,EK & ROSWALL:AER A

(Ranarim のメムバーでスウェーデンを代表するニッケルハルパ奏者の Niklas Roswall と女性フィドル奏者の Emma Ahlberg とギター奏者の Daniel Ek のトリオの三枚目。スウェーデン北部のメーデルパッド地方の古いフィドル曲や祖父から学んだ曲や複写本から見つけ出した曲などフォークやクラシックのジャンルを超えた曲をトラッド・ミュージシャンとしての鋭い感性で愛情深く演奏した素晴らしいアルバム。2015 作。Westpark)

*DOGGERLAND:No Sadness Of Farewell A

(英国人 Richard Burgess{ヴォーカル、コンサーティーナ、ギター他)とスウェーデン人北欧トラッドの名演奏家 Anders Ådin{ギター、ハーディーガーディ}の二人組"Doggerland"のデビュー作。英国フォーク&トラッド的感性なのだが、北欧の自然環境や生活やトラッドの影響だろう。感性が清々しくって、夢想的というか、Richard のシンギングもイングランド、北欧トラッド混在のアコースティック・サウンドも、その究極の美しさに息をのむ。Richard Burgess のシンギングに加えて、Anders の演奏を含む二人の演奏の見事さは、まさに孤高。w.Kevin Henderson,Mats Eden。2017 作。Westpark)

[CD/ＦＩＮＬＡＮＤ]



(Maria Kalaniemi)



(Dantchev:Domain)

*MARIA KALANIEMI & EERO GRUNDSTROM:Mielo C

(フィンランドそして北欧トラッドきってのアコ奏者の Maria Kalaniemi の新作は前作から共演しているハーモニカ・グループの Sväng のメムバーでハルモニウム奏者の Eero Grundstrom とのコラボ。タイトルの Mielo は心の意で、"Mielo"は心の羽根を伸ばすことについての音楽的の物語と言う。全曲 Maria のオリジナルで、物語のテーマはフィンランドの荒野とそこで暮らす生き物。Maria の演奏は彼女独特なタンゴ風なフィニッシュ・サウンドを散りばめつつ、あるときは"Wildwood Bride"のように森を吹き抜ける風のように疾走感があって気分爽快な演奏を聴かせ、あるときは"Wolf's Lullaby"のようにオオカミに子守りの音楽を聴かせるように深く優しい演奏を聴かせる。聴いて、これは Maria が心に感じて、心で奏でた音楽であること、そして一曲一曲にドラマがあることを実感する。そしてそのサウンドは紛れなくフィニッシュ・トラッドを栄養分にして、自由自在に羽ばたく Maria のオリジナルな音楽。Eero は控えめの演奏で、Maria の音楽を羽ばたかせる役割に徹している。Maria のオーロラ的{?}なスキャットも魅力。フォークフェスのレストランで Phillip Page に彼女を紹

介されて早 27 年､Maria は実践で学んで､独自のフィンランド音楽を完成させている｡2020 作｡Akero)

*DANTCHEV:DOMAIN:Say It C

(フィンランド系ブルガリア人の女性シンガーの Anna Dantchev をヴォーカルに据えた Anna を含めて五人編成バンド"Dantchev :Domain"{使用楽器はギター､各種管楽器､各種大小パーカッション､ビブラフォン等}の本作は､名前からフィンランド人と思われるバンド･メムバーで､フィンランドで録音されていて､一種独特なブルガリアン･ヴォイスの音楽として結実している｡その一種独特さは､バンドの音楽がブルガリアのリズムをベースにジャズやブルースとミックスした音楽で､Anna のブルガリアン･ヴォイスの特長を活かした自在なシンギング､それも大地の母的に悠久感のあるシンギングとポジティヴな異種交配サウンドの目新しさと醍醐味はドラマティックで鮮烈｡全体を覆う愁いの感覚は､フィンランド的感性か｡2020 作｡Glomama Music)

[CD/ＮＯＲＷＡＹ]

*ATTERLJOMEN:Tonar I Tre B

(Lom{ロム}というフォーク･ミュージックが盛んな地方で育った Astrid Sulheim と Bjørn Kåre Odde と Aslak Brimi の三人のフィドル奏者のトリオ"Atterljomen"による本作は､Bjørn と Aslak が長い間に収集した Lom と Skjåk という地方のフィドル音楽集｡曲目は 19 世紀から 20 世紀に活躍したフォーク･ミュージシャン達の楽曲｡個々に作曲者は異なるが､三人が三色の音色で織り上げた音楽は紛れもなく極北ノルウェーのトラッドであり､フィドル･ミュージック｡心洗われる全 16 トラック｡2019 作｡Ta:lik)

*KELPIE:Danse Mi Vise B

(ノルウェーの妖精歌姫 Kerstin Blodig とケルティック･ギター名手でシンガーの Ian Melrose の男女デュオの Kelpie の六枚目｡英題は"Dance My Song"｡前作のクリスマス･アルバムに続く本作は全天候型の音楽の作りどきと思い､二人の心から愛する唄を演唱したという｡その音楽は北欧の長い夏の日にふと思い起こしたようなリラックスして夢がかった音楽｡2019 作｡Westpark)

*KERSTIN BLODIG&IAN MELROSE:Kelpie A

(今では珍しい CD-ROM 機能付 CD｡事実上の Kelpie のデビュー作｡ダンサブルなマウスミュージック等､ノルウェーのトラッドのコアの味わいを深めた身の毛もよだつ気品高いオリジナルなトラッド｡歌詞英訳付｡CD-ROM ではライヴ演奏が楽しめる｡2003 作｡Alula｡検品してお送りします)

*BERIT OPHEIM:Eitt Steg A

(ノルウェーのグラミー賞と呼ばれているノルウェーの音楽賞の Spellemannprisen にノミネートしたノルウェー屈指の女性トラッド･シンガーの B.Opheim の 1996 年のデビュー作｡教会で収録されたという本作は､彼女の身が引き締まるようなトラッド・シンギングに圧倒される｡これ以上の北欧トラッド･シンギング･アルバムはないと思えるほど､高い精神性で充実している｡1996 作｡NORCD)

[CD/ＬＩＴＨＵＡＮＩＡ]

*UNDAN:Vidury Mareliu B

(リトアニアの一姫二太郎の三人組トラッド･グループの Udan のデビュー･アルバム。アフリカの民族楽器の親指ピアノ"ムビラ"の演奏家でシンガーの Judita Butkevičiūtėの聖と俗とを持ち合わせたシンギングの何と魅惑的なこと！Merope の Indre のような夢幻感や悠久感があって、トラッド/フォークとして個性的で音楽の深みが深い。バンスリ、フルート奏者の Adomas Šimkūnas とギター奏者の Laurynas Vaitulevičius とによる音楽は、ムビラの効果や川のせせらぎの音などを含む効果音の導入などミニマル･ミュージック的な不思議さを創り出している。リトアニアの古謡の世界にタイムスリップ。2018 作。Dangus)

*MEROPE:Naktes B

(便せん様式特殊パッケージ。リトアニアの一姫二太郎の三人組トラッド･グループの Merope の三枚目。何よりの魅力はリトアニアのカンテレ系弦楽器カンクレスの演奏家でシンガーの Indre Jurgeviliciute の東欧情緒を漂わす夢幻感のあるシンギング。カンクレスの弾き語りのみでも十分にリトアニアのトラッド/フォークとして輝いていると思うことしきりだが、その上にバンスリ奏者の Jean-Christophe Bonnafous とギター奏者の Bert Cools が夢幻感のあるサウンドで静かに彩りを添えている。Indre のシンギングは子守唄のように優しく、リトアニア民謡のメロディとシンギング･スタイルで悠久の音楽を創り出している。2018 作。Granvat)

*SEN SVAJA:Kraitis Is Pelkės B

(3D{立体視}様式特殊ジャケット。2010 年結成のリトアニアの女性ヴォーカル･トリオの Sen Svaja～Dorota Girskienė{ヴォーカル、パーカッション}、Agota Zdanavičiūtė{ヴォーカル、チター、パーカッション}、Živilė Rimšaitė{ヴォーカル、チター、パーカッション}～の二枚目。古代リトアニアのフォーク･ソングに焦点を当てたという本作は、女性トリオ編成の「ブルガリアン･ヴォイス」のリトアニア版の印象だが、彼女達の合唱は個々のシンギングに独創性と即興性と開放感があって、女性ヴォーカル･トリオによる新感覚のフォーク･ソングを瑞々しく創作している。チターの雅びな音色が厳かで不思議なムードを添えている。2018 作。Dangus)

[CD/ＬＡＴＶＩＡ]

*NAMEJS KALNIŅŠ:Laika gaitā B

(ラトヴィアのカンテレ系民族楽器の Kokle{クークル}の演奏家の Namejs Kalniņšのソロ。彼の水面に映る木漏れ日のキラキラ感までをも表現したかのような演奏は細やかで、まるで日の光や森の妖精が舞い踊っているかのように感じられる音楽。2018 作。Lauska)

*RAHU THE FOOL:Rahu The Fool D

(豪華 CD ブック形ケース仕様の二枚組。二姫三太郎の五人組の Rahu The Fool の音楽はユニーク。ウォッシュボード、ダブルベース、ギター、フィドル、フルートから奏でられる音楽は、米国のジャグバンドや古臭いブルースやジャズやカントリーと東欧風{ラトヴィア風？}のフォークとが混ざり合った異種交配サウンドで、ヴォーカルはウクライナの Uklainians やロシア民謡のような感じもある。2019 作。Rahu The Fool)

[CD+DVD/ＢＲＥＴＡＧＮＥ] PAL Region２
※PAL 方式再生可能 DVD ﾌﾟﾚｰﾔｰ/ﾊﾟｿｺﾝでのみ再生可能
*DAN AR BRAZ:Frontieres De Sel ¥2980
(CD と DVD のセット。CD は 2005 年のライヴ５曲に 2001 年作の"La Memoire Des Volets Blancs"から３曲そして 2003 年作の"A Toi Et Ceux"から２曲の Dan のエレキギターが輝く彼らしい美麗なフォークロック全 10 曲。155 分。2006 作。Pathe。検品してお送りします)

[DVD/ＢＲＥＴＡＧＮＥ] PAL Region２
※PAL 方式再生可能 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰ/ﾊﾟｿｺﾝでのみ再生可能
*ALAN STIVELL:Alan Stivell ¥2980
(フィルムとコンサートの２本立てで、"フィルム"は A.Stivell のブルターニュ音楽からアイルランドの旅と共演{Matt Molloy, Dubliners, Paddy Moloney, Liam O'Flynn, Brenda Mayock それにロックバンドの Simple Minds 等との共演}のドキュメンタリー 47 分。"コンサート"は 2000 年の野外フェスのライヴで 50 分。2000 作。Arte Video。検品してお送りします)

[CD/ＦＲＡＮＣＥ]
*YANN-FANCH KEMENER:Roudennou/Traces ¥2650
(昨年の三月に 61 歳の若さで亡くなった。本作は膵臓癌との戦いと平行して制作された Yann の二枚組の新作で遺作。序文の冒頭には「このレコーディング《ブルターニュの詩歌を賞賛して》は、人として、またアーティストとしての 45 年間の旅を記念する」)と書かれている。Yann がブルターニュ一随一のトラッド･シンガーであり、欧米トラッド＆フォーク界でも屈指のシンガーであったことは、トラッド･ファンなら周知の事実。しかし本作は彼のどのアルバムをも超える素晴らしさだ。彼が 45 年の歳月を費やして、農夫や労働者や放浪者や乞食などから聞き取りした民謡等を彼は一曲一曲に魂を込め、聞き取りしたときの思い出をも込めて、シンギングしている。そのシンギングたるや闘病中とは信じられないほど声が軽やかに弾んでいて、早春のような清々しささえぼくには感じられる。彼のソロ･シンギングのみならず、ギターを中心にアコやハープの伴奏そして男女のシンガーとのデュエットなど、豊かなリズム感と絶妙のコンビネーションそして総合的にブルターニュ調に彩り感を感じさせる音楽の素晴らしさは、言葉では言い尽くせない。2019 作。Buda)
*TRIO ERIK MARCHAND:An Tri Breur C
(発掘。副題"Chants Du Centre-Bretagne"。ブルターニュを代表するスーパー･トラッド･バンド"Gwerz"のメムバーで、ブルターニュを代表するトラッド･シンガーの Erik Marchand がブルターニュのトラッドとアラブ音楽との融合を試みたブルターニュ･トラッド･アルバムの傑作。11 曲中 5 曲が Yann-Fanch Kemener 収集の詩歌で、"Ar Gwinn"と題された曲三曲では、Erik Marchand と Yann-Fanch の白熱したヴォーカル･デュエット{歌合戦？}が拝聴できる。Erik の「硬」と Yann-Fanch の「軟」の声の妙が実に素晴らしい。Yann-Fanch にとって同志 Erik Marchand の存在はどんなにか頼もしかったことだろうと、改めて本作を聴いて思う。
1991 作。Silex。検品してお送りします)
*GLENMOR:Dix Ans Deja B

(ブルターニュ文化や自然環境保護に尽力し、世代を超えて多くの音楽家に影響を与えた国民的シンガーの Glenmor の 2007 年作。彼の落ち着きのあるの深い味わいのある唄の内に怒りや憧憬等の様々の情感が熱く感じられ、強さと優しさを併せ持った素晴らしい唄を朗々と聴かせる。2007 作。Coop Breizh。検品してお送りします)

*GAYANE:He Brings You Flowers a

(ブルターニュの歌姫 Gayane の 2006 年作。13 曲中 10 曲は英語で｛ﾗｽﾄの仏語の歌は英語による１曲目の仏語ｳﾞｧｰｼﾞｮﾝ｝、英国の夢心地な不思議女性 SSW 的。夢のような世界をきらめきのあるアコースティック･サウンド～フォーク･ロックで、Gayane らしい美意識の中で表現しきっている。2006 作。Keltia Musique。検品してお送りします)

*GAYANE:He Brings You Flowers a

(ブルターニュの歌姫 Gayane の 2006 年作。13 曲中 10 曲は英語で｛ﾗｽﾄの仏語の歌は英語による１曲目の仏語ｳﾞｧｰｼﾞｮﾝ｝、英国の夢心地な不思議女性 SSW 的。夢のような世界をきらめきのあるアコースティック･サウンド～フォーク･ロックで、Gayane らしい美意識の中で表現しきっている。2006 作。Keltia Musique。検品してお送りします)

*NOLWENN ARZEL:La Harpe De Bretagne - Strewiñ C

(両親がブルターニュの出身で、ご本人はパリ生まれのケルティック･ハープ奏者の Nolwenn 嬢のソロ。彼女にとってブルターニュの伝統音楽は夢の音楽。彼女はブルターニュの伝統音楽の個性的な民俗性を保持しながら、独自の夢感覚の色を輝かせて、幽艶で優艶なハープ･ミュージックを創作する。2014 作。Coop Breizh)

*BROTTO LOPEZ SEXTET:La Ronda Dels Viatges B

(Rosina de Peira e Martina の時代から時を経て、若々しいｵｸｼﾀﾆｱのﾄﾗｯﾄﾞ･ﾊﾞﾝﾄﾞの登場。ｳﾞｫｰｶﾙは Guillaume Lopez と Lolita Delmonteil-Ayral の男女の二人。唄はこの二人が掛け合うｽﾀｲﾙ。双方とも南欧的なﾄﾗｯﾄﾞの香り立つｼﾝｷﾞﾝｸﾞだ。三曲目の"Quando io eri hilha a marider"は Rosina de Peira e Martina もうたっていたが、伝統性の内で、新たな命を吹き込んでいる。世界ｸﾗｽ。2014 作。Camom)

*ALAN STIVELL:Legende(1983 作。Dreyfus) a

*ALAN STIVELL:Again(1993 作。Dreyfus) A

*ALAN STIVELL:Brian Boru(1995 作。Dreyfus) A

*ALAN STIVELL:Back To Breizh(1999 作。Dreyfus) A

*ALAN STIVELL:Au-Dela Des Mots A

(英題"Beyond Words"。w.Ronan Le Bars｛ｲﾘｱﾝ･ﾊﾟｲﾌﾟｽ｝,David Hopkins｛ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ｝。2002 作。KeltiaⅢ)

*ALAN STIVELL:Emerald A

(2009 作。KeltiaⅢ)

*MALICORNE:Concert Exceptionnel Aux Francofolies De La Rochelle A

(Gabriel&Marie Yacoub,Hughes De Courson,Laurent Vercambre, Oliver Kowalski のラインナップの Malicorne の 2010 年のライヴ盤。圧巻！2010 作。Sony Music/検品して送ります)

[CD/SWITZERLAND]

*SWITSERLAND - Archive Of Folk Music A
(副題"Collection Constantin Brailoiu{1927-1951}。世界の民族音楽の収集家でハックブレット奏者の Constantin Brailoiu の名演奏集。全 65 曲収録。英語解説書付。DVDｹｰｽ仕様。2009 作。Disques VDE-GALLO。検品してお送りします)

[CD/ＰＯＲＴＵＧＡＬ]

*JOSE AFONSO:Cantigas Do Maio(1971 作。Movie Paly) C
*CRISTINA BRANCO:Post-Scriptum/Mumurios ¥2800
(独特な感性を持つファドの歌姫 Cristina Branco の"Mumurios"{1998 年}と"Post-Scriptum"{2000 年}の二枚組。発売当時、二枚ともにタムボリンのベストセラー。2002 作)

[CD/ＳＰＡＩＮ]

*TAHONA:Relamidos B
(1972 年結成で本作が 11 枚目というレオン･カスティーリャの男性トリオ"Tahona"の本作のテーマは｢料理への賛辞｣。アコ、ヴァイオリン、ギター、リュート、各種パーカッションがスペインの民俗音楽を奏で、三人が様々なシンギングで伝統歌を、ある時はユーモアたっぷりに、またある時は祝宴ムードたっぷりに料理して楽しませる。2009 作。Several)
*TRIQUEL:Rock Celta B
(1991 年結成のスペインの本作収録時六太郎の大型ケルティック･ロック･バンドの 2008 年のアルバムでラスト･アルバム。彼らのロックはアイリッシュ･トラッドや英国のフォーク･ロック直輸入型のフォーク･ロック。全ての演唱が優雅で高潔で圧巻。未体験のフォーク･ロック･ファンはぶっ飛ぶよ。2008 作。Armando)
*FOLK ON CREST:Calle De La Botica B
(Folk On Crest はケルト音楽の隆盛に刺激を受け、結成されたスペインの若いケルト系トラッド･バンド。ガリシアのムイニエーラなどをバグパイプ、ホイッスル、ギターがケルティックなサウンドを高らかに響かせ、紅一点の Yolanda Rio がパーカッションを打ち鳴らし、抜群のシンギングで釘付けにする。恐るべきスペイン発のトラッド･アルバム。2011 作。Severalia。検品してお送りします)
*RUAILLE BUAILLE:Ru:le Bu:le B
(英国人シンガーの Duncan Bennett がヴォーカルのスペインの五人組ケルティック･バンド"Ruaille Buaille"の 2009 年作。アイリッシュとスコティッシュを中心に、ガイタ、イリアンパイプス、ホイッスル、ブズーキ、ギター、マンドリン、フィドル、バウロンなどの楽器を駆使し、アイルランドやスコットランドの大型バンドと肩を並べるケルティック･ミュージックを堂々と体現する。Duncan Bennett の唄心ある味わい深いシンギングは絶品で、特にトラッドの名曲"The Lakes Of Pontchartrain"は圧巻。ボーナス曲"The Lark In The Morning"を含めて全 10 曲。数に限りがあります。2009 作。Several)

[CD/ＧＡＬＩＣＩＡ]

*MILLADOIRO:Galicia No Tempo(90 作。Discmedi Blau) B
*MILLADOIRO:3(92 作。CBS) B

*MILLADOIRO:Solfafria(ｹﾞｽﾄ:Paddy Moloney。92 作。CBS)　B
*MILLADOIRO:Unha Estrela Por Guia(2006 作。Discmedi Blau)B
*CHOUTEIRA:Folla De Lata　B
(ガリシアの歌姫 Uxia をヴォーカルに据えた異色のガリシアン･トラッド･バンドの Chouteira の 2000 年の三枚目。面白いのは、ガイタやパンデレイタやアコなどの馴染みの楽器に加えて、サックスやチューバやトランペットなどの管楽器が加わっていて、イングランドなら Brass Monkey のような音作りを加えていること。このサウンドは、ケルティックなガリシアン･トラッドに耳慣れたファンには目新しく響くが、ある意味むしろ南欧～地中海の民俗音楽的な響きでもあって、むしろ土俗性を増しているようにも感じられる。Uxia の孤高のシンギングも絶品。2000 作。Boa)
*NA LUA:As Fases De Na Lua　B
(ガリシアを代表する歌姫 Uxia を擁したガリシアを代表するトラッド＆フォーク･ロック･バンド"Na Rua"の 20 周年記念アルバム。既発表音源からの全 18 曲。ガリシア独特なケルティック･サウンドは、今聴いても鮮烈。2001 作。Boa))
*UXIA:Estou Vivindo No Ceo(1995 作。Nubenegra)　B
*EMILIO CAO:Cantas Marinas(1998 作。Do Fol)　D

[CD/ＩＴＡＬＹ]
*A FIL DE CIEL:Vertigo　A
(北イタリアのトラッド･グループによるオクシタニア地域の中世から近世の伝統歌を中心にした南欧トラッド風に典雅で刺激的なトラッド･アルバム。何よりも魅力的なのはハーディー･ガー奏者でヴォーカルの Rosella Pellerino の南欧の女性シンガーのエキゾティックで魅惑のシンギング。素晴らしい南欧トラッドだ。2010 作。
FolkClub EthnoSuoni)
*ROSAPAEDA:In Forma Di Rosa　A
(南イタリアの歌姫 Rosapaeda の 2001 年のアルバム。彼女のアラブ＝地中海風味香るヴォーカルと敏腕演奏家達による汎南イタリア～汎地中海音楽的にスケールの大きな民俗色豊かな音楽。
2001 作。Sottosuono)
*ALESSANDRO TOMBESI:Barene　B
(1994 年生まれの若きハープ奏者でシンガーのデビュー作。ケルトのハープとは違う、ヴェネツィアの伝統音楽の土壌の上に咲いた優雅で穏やかなハープ･ミュージック。2011 作。Calicanto)
*TERESA DE SIO:Africana(中古の新品。1985 作。Philips)　C

[CD/ＣＺＥＣＨ]
*HELENA VEDRALOVA & MUZIGA:Zezali　C
(チェコとチェコ東部のモラヴィアの伝統音楽に触発されて結成したという女性シンガーの Helena Vedralova のシンギングをフィーチャーした彼らの音楽は、東欧風ユーロ･トラッドとして、魅力的。伝統的民衆音楽に思いを馳せ、ジャズの要素を上手く取り入れて、独自のチェコ･トラッドを見事に実らせている。
2019 作。Indies Scope)

[CD/ＢＵＬＧＡＲＩＡ]

*BELONOGA:Through The Eyes Of The Earth B
（ブルガリア国立放送合唱団"Mystery of the Bulgarian Voices"出身の女性シンガーの Gergana Dimitrova-Belonoga のソロ。ブルガリア屈指のカヴァル奏者の Kostadin Genchev や Philip Koutev Ensemble のガドゥルカ奏者の Peter Milanov 他ブルガリア屈指の民族楽器の演奏家等にジャズ･トランペッターの Rossen Zahariev-Roko を加えたバンドの音楽は、ブルガリアの民族音楽の土俗的なサウンドを果敢に体現していて圧巻だし、Belonoga のブルガリアン･ヴォイス的に磨き抜かれたヴォーカルはマジカルで絶品。2019 作。CPL-Music）

[CD/ＨＵＮＧＡＲＹ]

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe B
（2012 年の衝撃のデビュー作から７年。衝撃は本作においても不変。野心的なハンガリアン･バンドが少なくなった今日、北欧の魔性的トラッドを彷彿させる Meszecsinka のフォーク･ロックの深淵な野性味と無国籍な異国情緒は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つ Oláh Annamaria 嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。昔、Kolinda を聴いたときもその未踏の境地に突き進む先進的なフォーク･ロックに衝撃を受けたが、Meszecsinka のフォーク･ロックにも同種の感動を覚える。今までに体験したことのない、孤高のハンガリー発フォーク･ロックだ。2019 作。CPL-Music）
*ORFEO:Zeneszcsoport B
（Kolinda 結成前の Kolinda のメムバー達の貴重な音源集。Kolinda の諸作はデビュー時からロック･ファンにも衝撃を走らせた完成品以上の完成品だったが、本作では、Kolinda 前夜的完成音楽、ハンガリー伝統音楽等が聴ける。試行錯誤時代の Kolinda と Kolinda の姉妹グループの Vizonto の魂震わす演唱だ。全 22 曲。P62 のブックレット付。2011 作。KOKE-001）
*MAKAM:A Part（1998 作。Fono） B
*MAKAM:Anix（2003 作。FolkEuropa） B
*MAKAM:Almanach（2004 作。FolkEuropa） B
*MAKAM:Zarandokenek（2008 作。Z Paravan BT） B
*MAKAM & KOLINDA "Bognar Szilvia,Szirtes Edina Mokus" B
（2011 作。Z Paravan BT）
※以上、Makam（& Kolinda）は検品してお送りします。
*LAKATOS ROBERT ES A REV:Hajnalodik B
（ハンガリーの著名なフィドル奏者の L.Robert と彼のグループによるクラシックと伝統音楽を融合を試みた意欲作。ヴォーカルは L.Robert の奥様の Korpas Eva。2005 作。FolkEuropa。検品してお送りします）
*KORPAS EVA:Szerelem,Szerelem B
（英題"Love,Love"。Primas Parade,Tukros Band,Lakatos Robert などのアルバムで魅惑的なヴォーカルを披露している女性シンガーの Eva のソロ。本作は Eva のエキゾティックで不思議な安らぎ感があるジャズ風味のハンガリアン･トラッド。Muzsikas 系でも Makam 系でもな新感覚の魅惑のハンガリアン･トラッド。全 18 曲。2010 作。FolkEuropa。検品してお送りします））
*KALLOS ARCHIVUM:Uran,Irgalmazz Nekunk（2005 作。Fono） C
*TURKROS ZENEKAR:Azatmari Nepzene Az 1900-As Evekbol A

(副題"Hungarian Village Music From The 20th Century。表紙に少しシミが見られます。2000 作。Folk Europe)

*GA'ZSA:Transylvanian Folk Music A

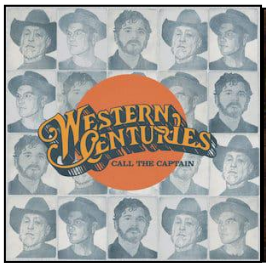
(ブックレットに自然にできたシミが見られます。1998 年。ABT)

*VUJICSICS ENSEMBLE:Southern Slav Folk Music A

(国内盤で濱田滋郎さんの解説付。おそらく元々帯無し。ブックレットと CD 共に新品同様ですが、台風被害で裏ジャケットの右側にうっすら雨染みが見られます。1989 作。Alpha Enterprise)

[NEW ARRIVAL]

※全商品 7 月 7 日入荷予定。



(Western Centuries)



(Piccard & Masure)



(Jean-Charles Guichen)

(CD/USA)

*WESTERN CENTURIES:Call The Captain A

(ネットで視聴。何ですか、このシアトルの五太郎バンドのいぶし銀のロックは。スティール・ギターをフィーチャーした彼らのロックは、The Band のロックをややカントリー風味に乾いた感じに仕立てたというか、リード・ヴォーカルの三人のヴォーカル・ハーモニーは The Band 風だし、曲によってはよっては Eggs Over Easy 風なのもあって、美味しすぎる。ちなみにバンドメムバーはリード・ヴォーカルの Ethan Lawton, Cahalen Morrison, Jim Miller の三人に Nokosee Fields と Thomas Bryan Eaton。ゲストが Jim Lauderdale と Tara Nevins。2020 作。Free Dirt)

(CD/BELGIUM, FLANDERS{Guitar 系})

*PICCARD & MASURE:Webbesnaren 2.0 B

(Orion, Laïs, Ambrozijn, Comas, Helen Flaherty Band のギター＆ヴォーカルで活躍してきた Philip Masure{ｷﾞﾀｰ、ｼﾀｰﾝ、ﾊﾞｳﾛﾝ、ﾀﾞﾗﾌﾞｯｶ、ヴォーカル}とマウンテン・ダルシマー系民族楽器"ホメル"の演奏家の Guido Piccard{ﾎﾒﾙ、ｼﾀｰﾝ、ｷﾞﾀｰ、ﾊﾞﾘﾄﾝ・ｳｸﾚﾚ}のデュオ・アルバム。"The music sounds always relaxed and beautiful, having a lot of atmosphere"とのこと。2020 作。Appel)

(CD/BRETAGNE{Guitar})

*JEAN-CHARLES GUICHEN:Braz Liver B

(ブルターニュのギタリストの Jean-Charles Guichen の 2019 年のケルト音楽の祭典"Festival Interceltique de Lorient"でのライヴ。Jimmy Page と Rory Gallagher のようなロッカーをモデルにロック的なアプローチでブルターニュのダンス音楽を創作とのこと。デビューが 1995 年というから、かなりのヴェテラン。Alan Stivell の 2000 年のアルバム"Back To Breizh"でギター担当。2020 作。Nevez)

---
*依然日本向けの郵便物の受付を停止しているアイルランドを除き、英米そして欧州からの郵便物の到着日数が読めず、これ幸いにと先月から半ば少し早い夏休み気分で過ごしています。発送された商品は全て追跡可能郵便で送ってもらうように指示。追跡すると、現地空港から日本の税関に届くのにもの凄い日数がかかっています。最大三ヶ月かかったのもありますが、世界中が新型コロナ禍にあっても、飛行機は飛んでるんですね。なぜかスコットランドからの郵便物はあまり遅れがありません。不思議です。
*時間的にも気分的にも余裕ができたので、仕入れ先のミュージシャンやレコード会社の担当者とも「商談」＋音楽談義のメールのやり取りを楽しむことができました。そしてこれからは、音楽談義の部分を大切に仕入れ業務を行っていきたいと思っているところです。今回一押しの Eilis Kennedy の新作は、Gerry O'Beirne との音楽談義の中で知ったことでした。教えてくれた Gerry にメールの転送を頼んだら、Eilis から新作の資料がメールで送られてきました。
*今回、Oysterband の Ian Telfer とメールのやり取りの中で、彼らが初来日したときの話で盛り上がってしまいました。会場の郵便貯金会館(でしたっけ)の入場者が少なかった(幕が上がったときの彼らの驚きの表情は今も忘れられません)のはともかく、彼はぼくの知り合い数人と居酒屋に行ったこと、そこで誰かにサインを頼まれて、レコード･ジャケットにサインをしたことや店の前で別れの唄をアカペラでうたったことなどよく覚えていました。今から 30 数年前の話です。
*今年の夏はこれまでのタムボリンの仕事を回顧するような作業を行いたいと思っていましたが、なぜが気分が乗らずにいます。かれこれ 30 年間、海外に出かけたり、本の原稿をを書いたり、夏は特別なことをする夏を過ごしてきましたが、たまには家で気ままに過ごす夏があっても良いかな、という夏になりそうです。
*今回、新入荷商品が少なめなので、選びやすいかと思われます。ではご注文をお待ちしています。
*新型コロナそして熱中症にくれぐれもお気をつけ下さい(船津)



Jacqui McShee & Kevin Dempsey(At Hinckley ACT,Leicestershire,UK。2019 年 3 月 22 日)